

1 9 9 9

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

目次（保育科）

教養教育科目（1年）

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
近代日本の歴史	6
西洋文学	7
西洋史概説	8
東洋美術	9
演劇論	10
現代社会論	11
現代家族論	12
日本国憲法	13
市民生活と法	14
政治学入門	15
生活の経済学	16
心理学入門	17
マスコミュニケーション概論	18
現代社会と女性	19
自然科学史	20
生命の科学	21
生物と環境	22
生活の科学	23
健康の生理学	24
宇宙と地球	25
情報処理入門	26～29
総合科目 人間	30～32
総合英語 I - 1、2	33～36
選択語学 I - 1 海外語学研修	37
スポーツ A (ダンス)	38
スポーツ A (テニス)	39
スポーツ A (バドミントン)	40
スポーツ A (バレーボール)	41
スポーツ B (キャンプ)	42
健康科学	43
スポーツ科学	44

専門教育科目（1年）

社会福祉概論	47
児童福祉	48
保育原理 I	49・50
保育者論	51
教育原理	52・53
発達心理学 I	54
発達心理学 II	55
教育心理学	56
小児保健 I	57
小児栄養	58
保育内容総論	59
保育内容 健康（保健行動）	60

保育内容 言葉Ⅰ（言語行動）	61
乳児保育Ⅰ	62
音楽Ⅰ（基礎理論）	63
音楽Ⅰ（ピアノ）	64
音楽Ⅰ（声楽）	65
図画工作Ⅰ	66
ゼミナールⅠ	67
幼稚園実習	68
実習指導	69
保育所実習Ⅰ	70

専門教育科目（2年）

社会福祉方法論	73
保育原理Ⅱ	74
養護原理Ⅰ	75
養護原理Ⅱ	76
臨床心理学	77
小児保健Ⅱ	78
小児保健実習	79・80
小児栄養実習	81・82
精神保健	83
教育課程総論	84
人間関係（社会行動）	85
環境Ⅰ（自然認識）	86
表現Ⅰ（文化行動a）	87・88
表現Ⅰ（文化行動b）	89
環境Ⅱ	90・91
言葉Ⅱ	92
表現Ⅱ（子どもの音楽）	93
表現Ⅱ（デザイン）	94
表現Ⅱ（ダンス）	95
保育計画法	96・97
乳児保育Ⅱ	98
養護内容	99
障害児保育	100
家庭管理	101
音楽Ⅰ（ピアノ）	102
音楽Ⅰ（声楽）	103
音楽Ⅱ（ピアノ）	104
音楽Ⅱ（うた）	105
音楽Ⅱ（ギター）	106
図画工作Ⅱ	107
体育Ⅰ	108
体育Ⅱ	109
ゼミナールⅡ	110~127
幼稚園実習	128
実習指導	129
保育所実習Ⅱ	130
実習指導	131
施設実習Ⅰ	132
施設実習Ⅱ	133

教養教育科目（1年）

【授業科目】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>小説・映画・ドラマ 中の世界は、どこに あるのだろうか？ それは、我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」だ。 この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標です。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時、プリントを配布します。プリント以外の「読書課題」は、ありません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じ、講義中に紹介します。特別に買う「義務」はありません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;">だいたい、次のような流れで、講義して行きます。 具体的作品は、プリント等を使って紹介＝解説します。</p> <p>① 「フィクション」について 例えば「小説」に書かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり、「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。……映画も、テレビドラマも同じこと。 しかし、我々は、なぜ、そんな「ウソッパチ」に感動したり、中には「生き方が変わってしまう」人まで出てくるのか。</p> <p>② 「作品世界」の構造（しくみ）について 「作品世界＝もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのだろうか。 そもそも、それは、誰が「見ている」世界なのか。「語っている」のは「誰」なのか。 少なくとも、いわゆる「作者」ではないはずだ。</p> <p>③ フィクションと「現実」について 小説・映画・ドラマは「現実ではない」という。 では、「現実」とは、何なのだろうか？ 何が「フィクション」で、何が「フィクションではない」のか。</p> <p style="text-align: right;">……日本とヨーロッパの、近代文学作品を中心に、 美術や音楽も視野に入れた講義になると思います。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて「書く」形式。 講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておけば、大丈夫。 出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 日本の古典作品の多くが、受験文法のために使われるのみで、その内容を知られないままに終わってしまうのは、とても残念なことだと思われる。</p> <p>優れた古典は、作品としての主張を持っており、現代に生きる私たちの解説をこそ待っている。王朝文学のおもしろさに気づくことが、第一の目標である。ついで作品の主張の意味を時代に即して考えることにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』・配布プリント</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>初期の物語作品からまず『竹取物語』をとりあげ、口伝えによるカタリから物語が生成してくるこの意味について、考えていく。</p> <p>ついで『源氏物語』をとりあげて、物語の成熟のさまを見る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、様々な竹取の物語 2、カタリの話型と、話型による物語 3、難題婚譚の達成 4、かぐや姫とは何か（物語の主題） 5、物語の中の異界：『古事記』の場合・『源氏物語』の場合 6、源氏物語の論理：形代・予言・宿世・身分 7、源氏物語の主題：王法と仏法・社会制度と自我 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時のまとめメモ ・定期試験時のレポート（または筆記試験） 	

【授業科目】 話し言葉の文芸	【担当者】 東 喜望
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 将来に資するために、口承文芸をとりあげます。 初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。 大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
【テキスト】 拙著『沖縄奄美説話探訪』(おうみ社)・講義資料プリント。	
【参考書】 授業時に随時指示する。	
授 業 計 画	
<p>この講座は、はじめ保育科だけを対象にしていましたが、その後、各科共通になりました。新しく福祉援助学科もできましたので、人間の真のヒューマニズムを考えるためにも、悪や犯罪の民俗にかかわる民話も積極的にとりあげることになりました。各説話の事例として、南西諸島の説話をとりあげます。</p>	
<p><u>講義の概要</u></p> <p>I. はじめに——「虚学」のすすめ----- (1)「浦島説話の源流」 (2)「わが国をニッポンというのなぜか。——古事記「岩戸神話」のルーツ</p> <p>II. 精神のコスモロジー----- (1)自然と人間 (2)ことばと文化 (3)「謡い」「語り」の発生——→文芸の起源</p> <p>III. 口承文芸概説--- (1)信仰と説話 (2)神話・伝説・昔話</p> <p>IV. 民話の現代性----- 悪を告発する民話——⁽¹⁾間引き・子がえい伝承 (2)継子・子売り・捨子伝承 (3)嫁殺し・兄弟殺し・親捨(姥捨)伝承。 (4)いけにえ伝承。</p>	
【評価方法】 定期試験時の筆記試験	

【授業科目】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 前期 ・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史を題材にしながら、時間の流れの中で移り変わり、変化をとげていく社会を構造的にとらえていく手法について話しをしたい。どのような視点から歴史を見つめるかといったことからまず検討し、それを実践したとき何が見えてくるかを明らかにしてみる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるので講義中に逐次紹介する。資料はプリントして配布する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>これまでの歴史の学習の中ではあまり体験したことのない、ローアングルからの歴史認識ということについてまず説明をしてみたい。歴史を支え、突き動かしている民衆に視座を据えたこのアプローチからは、近年、多くの研究成果が生み出されているが、実は、明治の初期に、すでにこのような視角から当時の民衆生活を克明に描き、そういった人々をとりまく社会の構造について分析したルポや研究の書があった。まず、これらを導きの糸にして、なぜそのような視角が成立し、そのような作品があらわれることになったのかを、当時の時代状況を検討することで明らかにしようと思う。歴史的な事件や人物などの細かい知識は不要。ダイナミックに近代の全体像をつかみ、その中でいろいろな形で歴史との関わりをもった人々に細心の注意を払い、その生き様をみつめる目を養うことが重要。以下、次のようなテーマを設定して講義を進めたい（但し、順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学ぶことについて—まずは固定イメージの転換から ・ローアングルからの歴史とは ・日本近代の見取り図—近代史像のダイナミズム ・明治という時代—人々を取り巻く国家の枠組みは ・底辺民衆を見つめる目—潜入ルポルタージュの先駆、松原岩五郎 ・『日本之下層社会』が問い掛けたもの—近代化の実相 ・成金時代に書かれた『貧乏物語』—足腰の弱い経済発展 ・恐慌と戦争の1930年代—民衆が求めたものは 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">本年度のテーマ：映画になった西洋文学</p> <p>最近、映画化される西洋文学作品が多い。良質のストーリーを求めると優れた文学作品に行き着くためと、優れた文学作品が文化的遺産として時代を超えて受け継がれているためであろう。一方、現代の視点と問題意識で作られた映画は、文学作品に新しい解釈をもたらすことがある。また映画化のたびに違った相貌を見せる作品もある。本年度は映画を案内役に、豊かな西洋文学の世界に近づいていきたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>毎回一つの文学作品について、映画の一部を視聴し、時代を経ても色褪せない文学の魅力のありかを考えたい。取り上げる予定の作品：</p> <p>ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』（1811年）；同映画(1995年)</p> <p>シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847年）；同映画(1944年及び1996年)</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（1595年）；同映画(1968年及び1996年)</p> <p>ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』（1868年及び1869年）；同映画(1933年、1949年及び1994年)</p> <p>マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（1936年）；同映画(1939年；リマスター版公開1998年)</p> <p>チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』（1860-61年）；同映画(1998年)</p> <p>アリス・ウォーカー『カラーパープル』（1982年）；同映画(1985年)</p> <p>エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』（1988年）；同映画(1993年)</p> <p>*作品は変更する場合がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート。</p>	

【授業科目】 西洋史概説	【担当者】 松本佐保
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>西洋の歴史について学ぶことは、何も過去についての知識を得るだけでなく、現代の西洋世界がいかにして形成されたかを知ることである。現代のような国際社会において、西洋の歴史や文化を知ることが、国際理解を深める上で非常に重要である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いないが、授業中に資料やプリントなどを配布する。</p> <hr/> <p>【参考書】 参考文献は、授業中に随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>歴史的な事件そのものを追うだけではない、文化的側面にも焦点をあて歴史を多角的に見ていく。政治的・経済的出来事が、いかに文化活動や様々な社会現象と関連があったかを理解することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋古代文明の形成：ギリシャとローマ時代を中心に 2. 中世キリスト教社会の成立 3. ルネサンス時代：イタリア都市国家とルネサンス文化の開花 4. 宗教改革：カトリックとプロテスタントの対立 5. 重商主義と商業革命：フランスとスペインを中心に 6. 帝国主義と産業革命：イギリスを中心に 7. 商業革命と産業革命時代の都市文化—民衆の生活様式の変化— 8. フランス革命とナポレオン戦争 9. ウィーン会議から社会主義の誕生まで 10. 近代国民国家の形成：アメリカ、ドイツ、イタリアを中心に 11. 第一次世界大戦とその歴史的意義 12. 第二次世界大戦と戦後 13. 総括 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席状況、但し私語などで授業妨害した場合減点）、レポートと試験の結果に応じて評価する。</p>	

【授業科目】 東洋美術

【担当者】 鈴木 泉

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

東洋美術の中核は仏教美術であり、その仏教美術を知るための基本的存在が仏像彫刻と言って差し支えない。本授業では、この仏像彫刻の歴史的な展開を、東洋の端に位置する日本を例に概観し、東洋美術の一面を垣間見ることとする。そこから、美術作品を見る眼、さらには美術に対する教養・知識の幅を広げることが狙いではあるが、なにより受講者諸君には、仏像を通して美術鑑賞の面白さを知ってもらいたいと考えている。

【テキスト】

テキストは用いず、適宜プリント資料を配布する。なお、参考文献等は必要に応じて授業中に紹介して行くつもりである。

【参考書】

授 業 計 画

紀元前6世紀、釈迦によってインドに誕生した仏教は、紀元1世紀頃、礼拜対象としての仏教尊像すなわち仏像を造り出した。やがて、仏教の広まりとともに仏像もアジア各地に伝わり、それぞれの国・地域でその表情や姿を変えて行くのである。通例「東洋」とは、インド以東、主に東南アジア諸国・中国・朝鮮・日本を指す語といってよい。しかし、その範囲は広く、各地域で文化の様相が異なり、美術様式も一様ではないため、必然的に地域・内容を絞らざるを得ない。

今年度は、我々にもっとも身近な日本の仏像彫刻に焦点を当て、その様式の古代から中世にかけての変遷について概観する。日本の美術は、常に大陸、とりわけ中国・朝鮮の強い影響を受けて進展を遂げて来た。彫刻も例外ではない。したがって、本授業においてもこの点を十分に踏まえ、随時中国・朝鮮等の仏像を比較参照の意味で紹介して行きたいと思っている。なお、授業は大凡以下の順序・内容となる。一つのテーマを1～2回の講義でまとめて行くつもりである（授業回数の都合により一部変更する場合あり／ほぼ毎回スライドを使用する予定）。

- I. 仏像の誕生とその伝播
①インドから中国・朝鮮への流れと日本への伝播
- II. 仏像の見方
②仏像の形式
③仏像の材質・構造
- III. 日本における仏像様式の展開
④飛鳥時代の彫刻：[仏教伝来][渡来仏][止利仏師][止利様式と非止利様式]
[法隆寺の諸像]
⑤白鳳時代の彫刻：[小金銅仏][当麻寺の諸像][旧山田寺仏頭][童顔]
⑥天平時代の彫刻：[法隆寺塔本塑像][薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺の諸像]
[写実]
⑦平安時代の彫刻：[唐招提寺木彫像群][一木造像][大仏師定朝][寄木造像]
⑧鎌倉時代の彫刻：[運慶・快慶と慶派仏師][新たな写実様式]
- IV. 総括
⑨日本の仏像彫刻の特質／東洋美術への誘い～美術鑑賞のすすめ～

【評価方法】

①平常点（出席状況・受講態度等） ②レポート（1回） ③学期末試験（筆記）
以上を総合して評価する。詳細はあらためて授業中に説明する。

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
 2. 授業時の小レポート
 3. 授業時の平常点
- } 左記3項による総合評価

【授業科目】 現代社会論	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>われわれは二つの世紀の生活を経験する人間になる。21世紀の将来像は予測されにくい。しかし、全く予測できないものではない。21世紀は20世紀の社会遺産を継承・発展してゆく。20世紀＝現代社会の特徴は何か。現代人と現代社会との関係はどうであったか。個人はいかに現代社会のもとで生活し、適応してきたか。現代国家にとって人間は何か。本講義はこれらの諸問題の解決に役立つ知識と考えを提供することを目的とする。本講義では歴史社会学的視点と国際比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは現代社会・現代人を分析する知識と考え方を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 現代社会の本質</p> <p>①現代社会の定義</p> <p>②現代と現代以前</p> <p>③国による異同</p> <p>II 現代社会の面相（1）＝産業社会</p> <p>①現代社会の発展の原動力：現代産業構造の形成</p> <p>②現代就業構造の形成</p> <p>③産業社会と現代人の意識構造の変化</p> <p>④消費社会と情報社会</p> <p>III 現代社会の面相（2）＝管理社会</p> <p>①「管理社会」のイメージ</p> <p>②管理社会化の現象・形態</p> <p>③管理社会と現代人</p> <p>IV 現代社会の面相（3）＝福祉社会</p> <p>①現代社会問題の構造（高齢化など）</p> <p>②現代社会の社会運営原則の限界</p> <p>③福祉国家と福祉社会</p> <p>④社会保障制度の構造・特徴・問題点</p> <p>V 総括 — 20世紀の特徴と21世紀への展望</p> <p>①国際社会化と国民国家のゆくえ</p> <p>②20世紀の特徴：科学技術の進歩／二次世界大戦／社会主義化と失敗／福祉国家化</p> <p>③21世紀への展望：西洋文明の強み／東洋文明の試練</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉—家族問題への対応』 培風館</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>— 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>— 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>— 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>— 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>— 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。</p> <p>(1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>— 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目】 日本国憲法

【担当者】 駒村圭吾

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

日本国憲法について講義を行う。学説や判例の紹介もさることながら、人権意識の育成や、日本・世界で発生している社会問題への関心の啓発に力点をおきたい。

【テキスト】

なし。

【参考書】

何でも良いので、「六法」と呼ばれるもの一冊を用意されたい。

授 業 計 画

- (1) 毎日、1回で完了するようにテーマを設定し、具体的な事例を通じて、憲法に対する基本的関心を育成する。
- (2) 例之は、外国人・公務員の人権、表現の自由の限界、政教分離、生存権と社会保障、生死の自己決定、天皇制、9条と国際平和、男女平等、など。
- (3) なるべく具体的かつ平明に語るつもりである。予習は不要であるが、毎回出席し克明にノートを取り、復習につとめほしい。
- (4) 授業が開始されればお分りいただけると思うが、担当者は教室管理にともうるさい。受講態度の不良な学生については、たとえ初犯であっても、大学側の学則とは無関係に、退室を求め、以後の受講を拒否する場合があります。お断りしておきたい。学生諸君の相互的な自浄作用によって適切な学習環境ができることを希望したい。

【評価方法】

学年末の記述式テストで評価する。
必要があれば、出席点を加味する。

【授業科目】 市民生活と法

【担当者】 武藤健一

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

2年後あるいは1年後に、女性である皆さんが実際に社会に出ていてみて、女性として遭遇すると思われる事柄・問題について、法律という観点も加えて、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけになるような授業にしたいと考えています。

【テキスト】 テキストは用いません（レジュメ配布）。

【参考書】 角田 由紀子 著 「性の法律学」（91年 有斐閣）、副田 隆重 他著 「ライフステージと法」（96年 有斐閣）の2冊をとりあえずあげておきます。

授 業 計 画

現代の日本では女性がどのような状況におかれているのかということ、
1° 就職・労働、2° 恋愛・結婚・家族、という2本の柱を立てて、社会的に、法学的に考察していきます。

授業数がおそらく10回未満になるので、この2分野のみで終わってしまうと思いますが（昨年度は終わりませんでした）、時間があればSexualityの問題なども取り上げてみたいと思います。

【評価方法】

昨年度同様に、学年末に試験を行ない、授業での出席点（・レポート点）を加味して評価をしたいと考えています。

【授業科目】 政治学入門

【担当者】 加地直紀

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

に本内外の具体的な政治現象を通して、政治とは権力闘争であることを理解する。

【テキスト】

中村勝範編著『運命共同体としての日米と台湾』(展転社、1989年)

【参考書】

授 業 計 画

本講義は、政治とは権力闘争であることを、以下の順に、具体的事例を通して解説する。

1. 政治の二面性
利害調整と権力闘争
2. 国内政治
政治家、政党による権力闘争
3. 国際政治
国家による権力闘争
4. 東アジア情勢
日米台と中国との対立

なお、受講中の私語、飲食は厳禁である。

【評価方法】

- ① 平常点
- ② 学期末のレポート

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山哲朗
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本経済を転換期ととらえ、「生活の豊かさ」の再把握という視点より、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>第一回の講義の中で指定する。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域—— 2 戦後日本経済の展開過程——時期区分—— 3 戦後日本の生活の変容 4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理—— 5 「生活の豊かさ」と高齢社会 6 「生活の豊かさ」と環境問題 7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター—— 8 生活福祉と社会政策 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 心理学の基本的なテーマについて紹介します。 今回は、性格と性格形成、対人関係の問題が中心テーマです。	
【テキスト・参考書】 テキスト：なし 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 金子尚弘・神田信彦・倉澤寿之「最後まで読める心理学」 重野純「キーワードコレクション心理学」、金子隆芳「心理学フロンティア」、 大山正「心理学への招待」、北尾倫彦「心理学への招待」、	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学のなりたち 心理学の流れについて 2.幼児期と性格形成 VTRを利用します。 3.意識と無意識：精神分析の人間理解(1) Freudの思想と精神分析の概説 4 同 (2) libidoの役割とlibidoの発達 6 同 (3) 防衛機制 7 同 (4) 物語と夢の分析 8 性格について(1) 基本的な性格論の紹介 9 性格について(2) 性格理解の試みについて 10 対人関係について考える 11 人間の問題に取り組むために <ol style="list-style-type: none"> 13.心理療法の役割 	
【評価方法】 平常点，中間試験，レポート	

【授業科目】 マスコミュニケーション概論

【担当者】 瀬木博道

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 現代はマスコミ支配の時代といえる。
マスコミとジャーナリズムの差違、「知る権利」の問題を考える
とともに、卒業後に役立つマスコミの応用面（広告、広報など）
にも踏み込んでみたい。

【テキスト】

瀬木博道ほか著「コミュニケーションからPR」電通

【参考書】

瀬木博道ほか著「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所

授 業 計 画

1. マスコミ・ジャーナリズム論

- マスコミとは何か
- ジャーナリズムとは何か
- 我が国ジャーナリズムの特徴

2. 知る権利

- 言論の自由と知る権利
- 言論の自由に関する自由主義理論と
社会的責任理論

3. マスコミ応用面

- 放送（テレビ・ラジオ）の問題
- 広報概論
- 広告概論

【評価方法】

出席状況、受講態度を参考にし、
期末試験で決める。

【授業科目】 現代社会と女性	【担当者】 川島美保
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代の女性の労働と暮らしの実態をとおして、来るべき男女平等社会、男女共生社会の課題を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>適宜、資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業のなかで紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの変化と女性の生き方 2. 女性の就労と労働環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 上昇する女性労働力率 2) 女性の働き方－多様な就業形態－ 3) 賃金・労働条件の男女格差 4) 労働法制の規制緩和と女性労働 5) 長期不況と女性労働 3. 女性と家庭生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家事・育児労働と性別役割分業 2) 共働きの生活問題 3) 女性の就労と子育て・介護支援システム 4. 少子・高齢社会と女性 5. アンペイド・ワークの社会的評価と男女共生社会 6. 男女共生社会への国内外の取り組み 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況及びレポート等による。</p>	

【授業科目】 自然科学史	【担当者】 柳下登
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学の歴史はヒトから人間化への歴史である。人間は古代から生命、広くは生物的自然に強い関心を持ち、それについての理解は紆余曲折を経て科学の姿を整えてきた。この講義ではそれぞれの時代の定説がより科学的な考えにとってかわった過程を追求することにした。そして、今日では生命科学の成果は生命操作の時代を迎えた。そこで、現代の生命科学をもとに確立したバイオテクノロジーと人間や社会の未来についての課題にも言及したい。</p>	
【テキスト】 プリントを中心におこなう予定。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 新編自然科学入門（甲斐義幸）学術図書、科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書、遺伝子の文明（フランソワ・グロ）丸善、近代科学の歩み（H. バターフィールド）岩波新書</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 科学を成立させた人間の条件</p> <p>a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道 c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 生きること（生活）が自然についての理解を深める f. 道具で道具をつくる g. 定住と農耕 h. 技術が先か科学が先か</p> <p>2) 生き物の本質を求めて</p> <p>a. 古代における生命の「母なる大地」の考え b. アリストテレス生命の完成への目的 c. ヘルモントの自然発生説 v s パスツールの実験 d. 細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ e. ラマルク：生物は段々と複雑になった f. ダーウィン：生物は共通の祖先から g. オパーリの生命の起源と「自然発生」説の復活 h. メンデルの遺伝の粒子説 i. ワトソン・クリックのDNAの2重らせん j. バイオテクノロジーの確立と人間、社会の課題</p> <p>3) 私の研究史：ピートン物語</p>	
【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他、自発的なテーマ設定の提出物を評価に加える。	

【授業科目】 生命の科学

担当者 小作明則

【開講期】 一年 後期

【授業目標】

21世紀を迎えようとしている今日「生物の多様性」の維持は地球上の生物環境をより安全な状態で維持していくための大きな課題である。この生物多様性を支えている「生命」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な理解を深め、さらに地球上における「人類」が抱えている今後の諸問題について概説する。

【テキスト・参考書】

テキスト・参考書は特に指定しない。

授業計画

この講義では授業目標に掲げた内容を理解するためにおおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できるかぎり実物を自分の目で見、手でさわり、バーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。

以下に時間ごとのおおよその講義計画のタイトルを示す。

1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来
2. 地球と水と生命の誕生
3. 地球型生物の特徴と進化
4. 分子生物学と生物進化
5. 植物と動物の分化と進化
6. 生物の存在と地球環境の変化
7. 脊椎動物の進化
8. 生殖方法の変化と動物進化
9. サルとヒト

以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩を通し、実物を見ながら生命について考えていこうと考えている。

【評価方法】

レポートあるいは筆記試験

【授業科目】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類は多くの生物たちから様々な恩恵を受けてきた。しかしこの多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人類による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は私たち人類の将来にかかわってくる。ヒトと生物とその生存環境を考える。</p>	
<p>【テキスト】 OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997.9 翔泳社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今から30年以上前に、海洋生物学者のRachel L. Carsonは『Silent spring』で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？知らないことが幸せなのか、知ることが不幸せなのか。</p> <p>授業は決して易しくはありません。幅広い基礎教養が要求されるはずです。今までの勉強がどれだけのものだったかが判ると思います。知る努力を惜しまず、共に考え続けていきたい。</p> <p>自然科学の世界 単位について 環境とは 生物の世界 生態系、その構造と機能 天然化学物質と合成化学物質 沈黙の春 環境汚染 内分泌攪乱物質 奪われし未来</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点+筆記試験</p>	

【授業科目】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住ならびに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している原子や分子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本授業の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「物質とは何か」-化学の基礎- 東京教学社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗いてみよう。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何により決まるのだろうか。 6. 物質の状態は何により決まるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酸は何故酸っぱく感じるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 人や物質の老化は防げるか。活性酸素の化学。 12. 物質科学とエネルギー。 13. 物質科学からみた衣類、高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 21世紀の物質の世界を考える。 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験、レポート、出欠により評価する</p>	

【授業科目】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官の生理機能の理解 3. 代表的疾患の成因を理解し、疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の習得 ——生活習慣病と対策 4. 女性の医学 5. 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定）：自己測定を行い健康への関心を高める	
【テキスト】 シンプル 衛生公衆衛生学（改訂第6版）南江堂 <hr/> 【参考書】	
授 業 計 画	
第1回 健康の概念 第2回 疾病予防と健康管理（I-1）：わが国の健康水準と健康増進施策 第3回 疾病予防と健康管理（I-2）：生活習慣病（癌・心疾患・高血圧） 第4回 疾病予防と健康管理（I-3）：生活習慣病（脳血管疾患・糖尿病・高脂血症） 第5回 疾病予防と健康管理（II）：健康管理法 （肥満・運動・ストレスと休養・飲酒・喫煙などの健康への影響） 第6回 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定） 第7回 女性の医学（I）（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン） 第8回 女性の医学（II）（主な疾患の概要） 第9回 女性の医学（III）（性病・人工妊娠中絶と避妊法） 第10回 学校保健・産業保健 第11回 環境保健・母子保健・地域保健・ 第12回 感染性疾患（インフルエンザ・肝炎・AIDSなど） 第13回 成人・老人保健 第14回 保健医療制度と法規	
【評価方法】 出席点とレポート	

【授業科目】 宇宙と地球	【担当者】 猪郷久義
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現在の地球上の自然環境は46億年に及ぶ悠久の地球史がたどった古環境の一断面である。現代の地球観を通してグローバル規模の自然環境全般と、災害・資源・環境の科学としての地学を考察する。次いで宇宙の一構成員としての太陽系と地球の誕生を考察し、地球史の古環境を具体的に復元し、特に生物が関与してきた地球環境変遷史を探究し、今日の問題への関与について理解を深めると共に将来を展望する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>その都度適当なものを推薦する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現代の地球観（地球の姿，地球上に働く力，大陸移動説とプレートテクトニクス） 災害と防災の地学（地震とその予知，火山災害と恩恵，海水面変動，気候災害と気候変動） 資源の地学（鉱物資源，金属・非金属資源，化石燃料，資源の偏在性と将来性） 地球の環境変遷史（宇宙と太陽系の誕生，隕石の科学，地球の誕生と生命の起源，原始地球の自然環境，二酸化炭素と酸素の起源，先カンブリア時代の生物進化，多細胞生物の出現，無脊椎動物の発生と爆発的進化，進化の実験場，脊椎動物の発生と上陸，植物の上陸戦略，緑の大地の出現と石炭，古生代末の危機到来と生物大量絶滅，ジュラシックパークの自然環境，中生代末の危機と生物大量絶滅，哺乳類の繁栄，人類と氷河時代） 地学と人間生活（環境・資源・防災の地学と21世紀の展望）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と論述形式のテストを行い総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 金子 尚弘
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 保育者として求められる情報処理の基礎知識を身に付けるとともに、文書作成、表計算、インターネットやE-メールの使い方、ホームページの作成など、業務においても役に立つ情報処理技術の基礎を獲得することを目的とする。	
【テキスト】 特に指定しない。	
【参考書】 授業の進行に合わせて紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、この授業の進め方とコンピュータ教室および機器の使用方法 コンピュータの使い方、特にキーボード操作の修得 周辺機器（フロッピー、MO、印刷機、マイク・レシーバー） 2、E-mailの使い方と文書入力的基础（課題：メールの送付） メールアドレス、アドレス帳、メールソフトの使い方、文書入力的基础 3、文書作成とファイルの管理（課題：指定ディレクトリへの文書提出） 簡単な文書作成（メモ帳）、本格的な文書作成（Word） 4、Word文書への表、図の挿入（課題：表、図のある文書の作成） 5、画像処理1 --Photoshopの使い方（課題：写真の変換処理） 6、画像処理2 --Illustratorの使い方（課題：グラフィック作品の制作） 7、インターネットサーフィンとホームページ（課題：ホームページの制作） 8、ホームページの更新（課題：ホームページの更新） 9、表計算ソフトExcellとグラフ1（課題：名簿と集計表の作成） 10、表計算とグラフ2（課題：集計表とグラフの作成） <p>授業の進み具合により授業計画の内容および課題を変更することもある。 進行および興味ある対象について希望があれば、可能な限り対応できるようにする。 この時期の基礎的技術の習得の如何によって、後になって大きな差ができる。 積極的に習得し、コンピュータ・リテラシーを身に付けよう。</p>	
【評価方法】 毎回出される課題をネットワークを通じて提出する。提出された文書、画像ファイルを評価し成績を出すので、欠席しないようにすること。	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>コンピュータを利用して「情報」とは何か、「情報を扱う（情報処理）」とはどのようなことかを理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>Microsoft Word, Microsoft Excel, Netscape Navigator, Adobe PhotoShop, Adobe Illustrator などのソフトウェアを利用する予定です。必要に応じて参考図書を示します。</p>	
授 業 計 画	
<p>「情報」となる素材をコンピュータ上で扱うための「技術」にはどのようなものがあるのか、その情報を「整理・分類」し、「再利用」できる形で「管理・保存」するにはどのような工夫が必要か、さらに、ネットワークを介して「情報」を「共有」するためにはどのような方法が有効か、といった「情報処理」に関連する事項を、実際のコンピュータ利用技術の習得を通して理解する。以下の項目にしたがって進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の素材 (1) コンピュータに取り込むことのできる素材 2. 情報の素材 (2) コンピュータで作成できる素材 3. コンピュータの仕組み 情報がどのように扱われているかを知る 4. 情報の利用 <ネットワーク (1)> Web Page 上の情報利用, 情報検索 5. 情報の交換 <ネットワーク (2)> 電子メールを用いた連絡 6. 素材の作成 (1) ワープロソフトを利用した文書情報 7. 素材の作成 (2) 表計算ソフトを利用した数値情報 8. 素材の作成 (3) 絵や写真情報の加工 9. 情報の共有 <ネットワーク (3)> Web Page に情報を公開する方法 	
<p>【評価方法】</p> <p>課題の提出</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 宮武直樹
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用までの基礎を学習する。</p>	
【テキスト】 随時プリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 参考文献を授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの構成と操作方法 2. 日本語ワープロ、Word の基本操作 (3 級程度の文書作成) 3. 表や罫線を使う文書作成 (2 級程度の文書作成) 4. 図形や段組を使う文書作成 (1 級程度の文書作成) 5. 表計算機能の使い方 6. 作図機能の使い方 7. 表計算ソフト、Excel の基本操作 8. 成績表の作成 9. 各種の成績グラフの作成 10. 成績に関するデータベースの作成 11. 学内ネットワークへの接続と電子メールにつ 12. 電子メールの送受信 13. 簡単なホームページの作成 14. まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出及び出席状況によって判断する。</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 森田信一
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現在、どのような分野でも情報処理の基礎的な知識・技術が必用とされている。この情報処理入門では、インターネットを利用した電子メールが活用できることと、ワードプロセッサを利用した文章表現が自由にできることをねらいとする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>インターネット時代の情報処理テキスト</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>大学のコンピュータシステムは、ネットワークで接続されており、インターネットへも接続されている。資料配布や課題提出などにもネットワークを使うことになるので、まずネットワークが自由に使えるようになることが必要である。そして次に、ワードプロセッサを使った文章表現の技術を身につけるといふふうに授業を進めていく。</p> <p>コンピュータシステムの利用方法 ネットワークの利用方法 ネットワークへのログオン 取り扱い説明ファイルや教材ファイルの扱い 課題提出の方法 電子メールの使い方 インターネットの利用方法とマナー ワードプロセッサを使った文章表現 基本的な文書作成 作表と図形描画 ビジュアルな文書作成 段組みとインデントのある文書</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>課題の提出 および出席によって評価する</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1 年 前期 (この科目は「通年」ですが、3人の教員が担当し、栗田担当分は前期前半です)	
<p>【授業目標】 総合科目人間【ヒューマニズムと現代】全体について</p> <p>☆ 1年間で3人の教員が担当する「総合科目」です。</p> <p>様々な発想・見解・学説がクロスオーバーする、本当に大学らしい知的刺激の場を目指します。「その1」~「その3」の3部に分かれます。</p> <p>☆ 【ヒューマニズムと現代】を統一テーマとして取り組みます。</p> <p>「ヒューマニズム」の問題性は? 「現代」における人間とは? 戦争や人権の問題は? 以下3頁を見て下さい。</p> <p><u>その1—【人間と「ヒューマニズム」】</u> (栗田担当分) については、下記の「授業計画」欄を見て下さい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布します。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じ、講義中に紹介します。特別に買う「義務」はありません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>本学の「建学の理念」とされる「ヒューマニズム」を、 自由に考えてみよう!</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>「ヒューマニズムは間違っている!」</p> <p>などと言う人は、めったにいません。</p> <p>では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のでしょうか。</p> <p>「そんなの、アタリマエでしょ」では、</p> <p>「自分の思想」にも「学問」にもなりません。</p> <p>要するに、「世間の通念」に流されているだけ。</p> <p>——そういう「ヒューマニスト」は、実に簡単に、「ファシズム」にも流されてしまう(かもしれない)。</p> </div> <p>総合科目人間【ヒューマニズムと現代】の、その1(第1部)は、【人間と「ヒューマニズム」】の問題を、おおむね、以下の順に講義します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【1】 人間の条件——「私」とは誰か。</p> <p>……「死」に向かう存在。「独我論」の世界か、「私を生み出した世界」か。</p> <p>【2】 「他者」との出会い。</p> <p>……「どうにかせすにはいられない」のに「どうにもならない」人。</p> <p>【3】 人間の自己肯定——近代ヒューマニズムの「栄光と悲惨」</p> <p>……我々は、ほんとうに「しあわせ」になったか。</p> </div> <p>大きな問題ばかりですが、「明るく楽しく考えたい」と思っています。</p> <p>詳細は、講義の「空気」の中で、決めて行きます。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート。まじめに参加していれば大丈夫!</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>中国の人口は世界の五分の一を占めている。現代中国の民衆を論じることは、現代社会の人間を論じることになる。本講義は、日中比較を通して、中国民衆の人間像 — 喜び・悩みなどを明らかにし、日本人と中国人の人間像の異同を探究する。ヒューマニズムの視点と国際比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは人間、社会、外国を相対的に見るための知識と能力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『中国民衆の欲望のゆくえ — 消費動態と家族変動』新曜社、1999年。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> I 中国の「一人っ子政策」と日本の少子化 <ul style="list-style-type: none"> ①中国の人口問題と「一人っ子政策」 ②日本の少子化 — 日本の人口政策の変遷 II 中国の家族構造の深層と日本の家族 <ul style="list-style-type: none"> ①中国の家族構造と伝統文化の深さ ②外国人が見る日本の家族構造の特徴 III 中国女性の社会的地位と日本女性の社会的地位 <ul style="list-style-type: none"> ①中国女性の社会的地位と「一人っ子政策」 ②外国人が見る日本女性の社会的地位 IV 中国民衆の「衣食住」と日本民衆の「衣食住」 <ul style="list-style-type: none"> ①中国民衆の「衣食住」 ②日本民衆の「衣食住」 ③消費社会化の収斂 V 21世紀アジア人のゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ①アジア人としての意識の確立の難しさ ②われわれの課題 VI 総括 — 現代社会における人間の奮闘と苦悩 <ul style="list-style-type: none"> ①個人と国家との関係 ②人権・ヒューマニズムの重要性 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>ヒューマニズムと現代 その3 前期のヒューマニズムと人権に引き続き平和について考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるとはどのような状態をいうのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを一緒に考えてみたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>差し当たっては最も平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争について、発生のメカニズムやそれがもたらす災禍を具体的な事例に即して検証する。次いで、そのような状態を回避するための取り組みがどのように行われてきたかを検討し、過去、現在そして将来におけるその有効性について考える。また、そういった行動の背景となった近代の平和思想の歴史についても触れてみたい。</p> <p>次のようなテーマで話しを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アジア・太平洋戦争と人・物・カネの総動員システム ◇現代戦争とゼロッサムの世界 ◇核被害の実情と核廃絶への挑戦 ◇平和憲法への道—近代の平和思想の歴史 ◇憲法9条を取り巻く現実 ◇「平和維持軍」が維持する「平和」とは何か ◇平和への課題—人権・福祉そして平和 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育現場を英語の教材としてとらえた教科書です。 保育者と、子供や保護者との間での日常生活に欠かせないコミュニケーションを、英語でどのように表現するかを学んでほしい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>English for Nursery Schools and Kindergartens Sanshusha; ¥1700</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストは、子供たちの園生活での様々な場面を扱った内容で20章から成り立っています。 各章の本文は必ず読んで自分なりに理解して授業に出ることを前提に一年間を通して内容を楽しみます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席日数、平常の小テスト、および期末テストを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>短かくて平易な英文をもとに、読む力を伸ばすとともに、高校で勉強した英語の文法・構文の基本を復習したり発展させる。また学習した英文や、例文を活用して自分のことを表現できるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布する。</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次のようなテーマを取りあげるが、その他に英字新聞の短い記事や人生相談を随時用いる。</p> <p>1. 自己紹介 2. 家族 3. 高校生活 4. 大学生活 5. 趣味</p> <p>6. いじめ 7. スポーツ 8. 幼稚園実習 9. 死刑廃止問題 10. エイズ</p> <p>11. 夫婦別姓 12. 公害 13. 携帯電話 14. 喫煙</p> <p>15. 人権 16. 人口問題 17. 食品</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト、小レポート、出席状況を総合して評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 菊地恵子
【開講期】 1 年 前期 ・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園や保育園の様々な場面で使われる英語表現で構成されたテキストを使用する。英語圏の児童が話す自然な英語を勉強することで、生きた英語に触れ、日常的な英会話の力を培うとともに、児童が育つのにふさわしい人間関係、環境についても認識を深められるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「保育の英語」 森田和子著 三修社 ¥1,700 他にプリント教材</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育園の生活を題材に、園の子どもたちと先生を主人公とした物語り仕立ての英語本文を読み、テープを聴く。英文の構造を理解しながら味わって読むとともに、自然な英語のイントネーションを学ぶ。 2 関連する単語、熟語、役に立つ表現などを覚え、対話練習をする。 3 英語でマザーグースなどの子どもの遊び歌やゲームを、実際に身体を動かしながらやってみて、英語圏の子どもたちの情操を育てる文化に触れる。 4 健康や環境の問題、子どもの人権の侵害など、現代の子どもを取りまく問題についても随時取りあげ、やさしい英文記事などで勉強していく。 5 夏休みには、現代の子どもを取りまく問題のなかで自分の研究テーマとしたいことを考えて選び、関連した問題を扱った新聞や雑誌の記事の切り抜きを作成する。 6 後期には、上記の夏休み課題で同様な問題を選んだグループやペアで、その問題を扱った英字新聞や英文雑誌の記事を読み、レポートを作成して発表する。 7 後期には、テキストの文例を参考にして、幼稚園または保育園実習の英語版を書いてもらい、上記のレポート発表とともに評価する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点 [出席状況、提出物、質問、意見発表等]、試験結果 (前期)、レポート内容 (後期) を総合して行う。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 1 年 前期 ・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>今まで6年間もの間培ってきた英語の力も、実際には十分に使いこなせないと感じている学生が多いだろうと思う。そうしたもどかしさを少しでも解消してもらい、1年の終わりには、英語への親近感が少しでも増してほしいと思っている。このクラスでは、リーディングを中心にして、英語の基本的な技能の獲得と向上を目指したい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>1) リーディング用テキスト・・・検討中</p> <p>2) Your Ear for English (リスニング用)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>英語と聞くと“アレルギー的拒否反応”を示す人もいる一方で、“日常会話ぐらいはこなしたいけど・・・”という思いを抱いている人も相当多いように思う。また、好きなポップスや映画を原語で味わいたいと思っている人もいるであろう。</p> <p>しかし会話も聞き取りも、やはり基本的な語法を無視できないのは当然であるし、ある程度の語彙や慣用語句の知識も必須である。そこでこのクラスでは、比較的平易な英文を読むことを通して、基本的な英語の技能を再確認し、また高めていきたいと思っている。さらに、サブ・テキストとしてリスニング用のテキストを使う予定である。</p> <p>＊授業の進め方</p> <p>最初の30分程をリスニング練習に当てる。練習問題はその場で答え合わせをして、後で提出してもらおう。その後の時間をリーディングに当てる。音読の後、内容理解のための様々な問題に答えていく。演習問題の内のどれかを毎回必ず提出してもらい、リスニング演習と並んで、成績の重要部分とする。また、学期に2～3度の復習テストを行う予定である。</p> <p>リーディング部分については、十分な予習ができていることを前提にして授業を行うので、承知しておいて欲しい。学生と私と、共に作り上げていく授業なので、是非毎回の出席と積極的な授業参加をお願いしたいと思う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状態、毎回の練習問題の結果、復習テストの結果、そして普段の授業参加度を総合して最終評価とする。</p>	

【授業科目名】 選択語学Ⅰ 海外語学研修	【担当者】 中島好伸														
【開講期】 1年夏期集中（前期5回の事前指導を含む）															
【授業目標】 イギリス、リーズ市に3週間ホームステイし、メトロポリタン大学の語学研修プログラムに参加しながら、日常生活の英語に慣れ、積極的にネイティブ・スピーカーとコミュニケーションできるようにする。また、イギリスの文化に直接慣れ親しむ。															
【テキスト・参考書】 事前指導にて指示します。															
授 業 計 画															
<p>この科目は、保育科、福祉援助学科の総合英語2単位、心理学科、教養科の選択語学Ⅰの2単位の振り返ることができます。</p> <p>前期に5回（その他出発直前に1回）、渡航すべてに関わる事前指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスポートの取得 ・渡航手続き ・イギリスの文化的知識の習得、現地生活に関するアドバイス ・基本的な英会話 <p>（事前指導等の連絡は教務掲示板を注意してみることに）</p> <p>英国リーズ市でホームステイし、リーズ・メトロポリタン大学の語学研修プログラムに3週間参加します。現地の授業は、ネイティブ・スピーカーによる小人数クラスで行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間8月5日～8月30日（予定は変更になることもあります） <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>8/5 成田出発→ロンドン・ヒースロー着</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/6 ロンドン市内観光</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/7 ロンドン→リーズへ移動</td> <td>ホームステイ開始</td> </tr> <tr> <td>8/9～8/26語学研修</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8/27 リーズ→ロンドンへ移動</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/28 ロンドン市内観光</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/29 ロンドン・ヒースロー→</td> <td>8/30 成田着</td> </tr> </table> <p>帰国後、反省会を行います。</p>		8/5 成田出発→ロンドン・ヒースロー着	ロンドン泊	8/6 ロンドン市内観光	ロンドン泊	8/7 ロンドン→リーズへ移動	ホームステイ開始	8/9～8/26語学研修		8/27 リーズ→ロンドンへ移動	ロンドン泊	8/28 ロンドン市内観光	ロンドン泊	8/29 ロンドン・ヒースロー→	8/30 成田着
8/5 成田出発→ロンドン・ヒースロー着	ロンドン泊														
8/6 ロンドン市内観光	ロンドン泊														
8/7 ロンドン→リーズへ移動	ホームステイ開始														
8/9～8/26語学研修															
8/27 リーズ→ロンドンへ移動	ロンドン泊														
8/28 ロンドン市内観光	ロンドン泊														
8/29 ロンドン・ヒースロー→	8/30 成田着														
【評価方法】 事前指導、語学研修の参加（修了証獲得）と帰国後のレポートにて評価															

【授業科目】 スポーツA (ダンス)	【担当者】 松村朋子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>エアロビクスダンスをアレンジしたコンビネーションの習得で、まずはダンスに親しむ。そして、用具を使わず、自分のからだだけで運動でき、更に、芸術的センスを磨くことのできるダンスを通じて、楽しみながら美しい身体をつくり、運動機能を高めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>1. ストレッチ 身体全体を使って、自由に動けるように柔軟性を高める。 普段はあまり使わない筋肉を意識的に動かし、気持ちもダンスへ切り替える。</p> <p>2. コンビネーション サイドステップ、スキップ、走る、ジャンプなど簡単な動作を組み合わせた短いコンビネーションを習得する。 短いコンビネーションのいくつかを繋げて踊ってみる。</p> <p>3. ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラムの振付けを覚える。 二人組やグループでフォーメーションを考えて、変化をつけてみる。</p> <p>4. ダンスプログラムの作成 今まで学んだ基本的なステップをどこかに使って、短いプログラムを創る。 全員で同じように踊るところと一人ひとりが動くところ、速い動きとゆっくりの動き、など変化に富んだ流れとなるように、グループで振付け・構成を考えて、発表する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度を特に重視する。実技テストを行う予定。</p>	

【授業科目】 スポーツA (テニス)	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主にダブルスのゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。 前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲームによる応用技術、戦術の獲得へと移行し、なるべく早い段階からゲームを行いルール、マナーの理解を深めたい。 後半はリーグ戦を行い、より高い技術、戦術の習得とテニスの楽しさを体験してほしい。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと実習のねらい <ol style="list-style-type: none"> (1)実習のねらい、展開、評価などについて (2)基本用語、基礎技術、ルール等の説明 2. 基礎技術、技能の獲得 <ol style="list-style-type: none"> (1)ラケット操作に慣れる、ボールの動きに慣れる (2)ストローク (フォアハンド&バックハンド) サービス (アンダー&オーバー) ボレー (ロー&ハイ) ロビング、スマッシュ等の基礎技術の練習 (3)複合練習と簡易ゲーム 3. 講義 (応用技術獲得の手がかりとして) <ol style="list-style-type: none"> (1)ルール、コートマナー、エチケット及び試合の進め方について (2)ダブルスペアの決定 4. ゲーム技術の習得 (主にダブルスゲーム) <ol style="list-style-type: none"> (1)スポンジボールによるゲーム練習 (2)ゲームの実践 (戦術、ポジション、コンビネーション) (3)ゲームの審判法の習得 <p>*雨天時には、屋内においてフリーテニス、卓球等を行います。 *ラケットは貸し出しますが、持参してもしてもかまいません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点 (50 点)... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上 (実習初回から終了までの過程における個人の上達度)、ルール、マナーや実習内容の理解度 出席点 (50 点)... 欠席-6 点、遅刻 (15 分まで) -2 点、早退-2 点</p>	

【授業科目】 スポーツA (バドミントン)	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをすることによって、運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・ 運動技能と知識の習得。 	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>技能練習とゲーム</p> <p>【バドミントン】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グリップとシャトル慣れ 2、ストロークの練習 3、サービスの練習 4、集団技能の練習 5、ゲームとルール、審判法 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席重視）とゲーム中に採点</p>	

【授業科目】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>6人制のゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。 前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲーム、ソフトバレーボール等による応用技術、戦術の獲得へと移行し、早い段階からゲームを行い、ルール、ポジションの理解を深めたい。後半はリーグ戦を行い、バレーボールの楽しさを体験してほしい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと実習のねらい <ol style="list-style-type: none"> (1)実習のねらい、展開、評価などについて (2)基本用語、基礎技術、ルール等の説明 2. 基礎技術、技能の獲得 <ol style="list-style-type: none"> (1)ボールに慣れる、ボールの動きに慣れる (2)基本動作 <ul style="list-style-type: none"> レシーブ (オーバー&アンダー) スパイク サービス (3)複合練習と簡易ゲーム 3. 講義 (応用技術獲得の手がかりとして) <ol style="list-style-type: none"> (1)ルール、マナー及び試合の進め方について (2)戦術、ポジショニングの反省 4. ゲーム技術の習得 (6人制) <ol style="list-style-type: none"> (1)ソフトバレーボールによるゲーム練習 (2)ゲームの実践 (戦術、ポジション、コンビネーション) (3)ゲームの審判法の習得 	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点 (50点)... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上 (実習初回から終了までの過程における個人の上達度)、ルール、マナーや実習内容の理解度 出席点 (50点)... 欠席-6点、遅刻 (15分まで) -2点、早退-2点</p>	

【授業科目名】 スポーツB (キャンプ)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を養う。 <ul style="list-style-type: none">・ 野外活動に必要な知識と技能及び判断能力・ 健康的な「こころ」と「からだ」・ 自然を親しみ愛好する態度と野外活動への参加意欲	
【テキスト・参考書】 参考書 横山正幸、森本精造：教育キャンプ入門、北大路書房、1993年。 清水ケンゾー：楽しいアウトドア・ライフ、日東書院、1995年。 小菅知三：キャンプ大全集、成美堂、1990年。	
授 業 計 画	
<p>生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用した野外活動は、健康の増進やレクリエーションとしての効果が極めて大きい。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性をもっている。</p> <p>そこで、この授業では、特に、自然環境にふれ合うことの楽しさや喜びを十分に体験するとともに、野外活動における適切な判断能力や将来に向けての意欲が得られるように留意して計画、実施する。</p> <p>1、日 程 1996年 6月下旬、7月下旬 事前活動 (学内) 8月4日(水)～ 8月7日(土) キャンプ実習 (現地) 8月8日(日) 事後活動 (学内)</p> <p>2、場 所 学内及び「山のふるさと村キャンプ場」 (東京都奥多摩町)</p> <p>3、参加者 学生24名、教員3名</p> <p>4、内 容 ①事前活動：運営組織・装備・食事等の計画・準備 ②キャンプ実習 第1日目：テント設営、水遊び、食事 第2日目：登山 (ハイキング)、食事 第3日目：ネイチャートレイル、木工、キャンプファイアー、食事 第4日目：食事、テント撤収 ③事後活動：装備の点検・補修、反省評価</p> <p>5、費 用 約10,000円 (食料費、交通費等)</p>	
【評価方法】 平常試験 (レポート、実技等)	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の健康問題と健康に対する考え方について ・健康の破壊と成立の条件について ・健康の設計と処方について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年。 国立大学等保健管理施設協議会編：学生と健康、南江堂、1996年。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面はもとより、行動学的側面や環境的側面、保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような健康観に立って行動学的側面や環境的側面を中心に、疾病予防と健康増進の学問としての、新しい健康科学の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康科学の概念 2、今日の健康問題 3、疾病の疫学と健康の成立条件 4、主体と健康 5、環境と健康 6、保健行動と健康 7、保健医療体制と健康 8、健康問題Ⅰ（アレルギー） 9、健康問題Ⅱ（ストレスと精神的健康、ダイオキシンと環境ホルモン） 10、健康問題Ⅲ（生活習慣病：がん、脳卒中、虚血性心疾患、糖尿病） 11、健康問題Ⅳ（薬害：サリドマイド、スモン、エイズ） 12、健康生活の設計と処方 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（小レポート）</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツを見て楽しめるようになること、 　　スポーツを試してみたいくなること ・ スポーツを社会現象として、批判的に見る眼を養うこと 	
【テキスト・参考書】 <p>AERA MOOK「スポーツ学のみかた」朝日新聞社</p> <p>日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなトピックを扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツと科学：スポーツ科学の全体像 2. ジャンプ競技と揚抗比 3. ポブスレーとクロストレーニング 4. スポーツの技術・道具の変化と科学 5. 滑降競技と乳酸 6. 滑降競技と環境問題 7. ドーピング問題と日常生活 8. スポーツとアイデンティティ：ラクロス、カーリング 9. スポーツとルール 10. スポーツと遊び 11. スポーツ解説と分析 	
【評価方法】 <p>各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。</p>	

專門教育科目（1年）

【授業科目名】 社会福祉概論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。</p> <p>保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の児童福祉論、2年次の社会福祉方法論へと結びつけることを目標にします。</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>「職安通りの夜間保育園」 (ひとなる書房・・・丹羽洋子著)</p> <p>「社会福祉小六法1999」 (ミネルヴァ書房編集部編)</p> <p>「心病める人たち」 (岩波新書・・・石川信義著)</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>上記授業目標にそって、授業の度にプリントを配り、それに基づいて授業を進めていきます。</p> <p>授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月はじめにまとめて返却します)</p> <p>授業は、定時に始めます。講義は70分程度でおさめる努力をします。最初の7分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声が授業に反映させていきたいと考えています。クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張ってくださいと願います。</p> <p>70分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数15回の確保は必要となります。学生みなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていききたいと願っています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)20パーセント、定期試験(レポートです)80パーセントの総合点で評価します。</p> <p>したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>	

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 ①児童福祉問題に関する現状を知り、その背景を学ぶ ②児童福祉施策の現状と法・制度のしくみについて学ぶ ③児童福祉政策の動向と展望を学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：竹中哲夫他編『子どもの世界と福祉』ミネルブァ書房 参考書：浅井春夫『子ども虐待と性教育』大修館書店	
投 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子どもの現状 子どもの権利条約の視点から子どもの現状を概説する 2. 養護・保育問題と国民生活の変容 養護・保育問題が生まれる社会的背景について説明する 3. 施設入所児童の現状と援助のあり方 児童養護施設の入所児童を中心に問題を抱えた児童の現状と援助のあり方について説明する 4. 障害問題とノーマライゼーションの課題 障害のとらえ方とノーマライゼーションの考え方及びその現状と課題について説明する 5. 児童問題をめぐる家族と地域社会 家族の現状をその機能の変化を時代と生活実態、地域社会の変容から捉え、地域社会のあり方を説明する 6. 児童福祉の歴史（戦後史を中心に） 社会福祉法人の設立と役割を、法・制度を中心に概説し、措置制度の意義を説明する 7. 児童福祉の法体系 児童福祉法の理念、法体系を説明すると同時に課題について説明する 8. 児童福祉の機関と施設 児童相談所と児童福祉施設の基本機能と、機関・施設の利用について説明する 9. 児童福祉の仕事とは・・・社会福祉労働論の現代的課題 児童福祉を支える各職種の内容と役割、従事者の資質について説明する 10. 児童福祉の課題と展望 児童福祉改革を概説し今後の課題と展望を考える 	
【評価方法】 簡単な中間レポートと定期試験	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 (1) 保育の大切さを知ること。 (2) 保育者の役割りの重要性を知ること。 (3) 子どもについて知ること。	
【テキスト・参考書】 「新保育原理」 萌文書林 岡本富郎他著	
授 業 計 画	
1. 子どもはどのような存在か。 2. 保育とは何か。 3. 幼稚園とは何か。 4. 保育所とは何か。 5. 幼稚園、保育所の歴史（外国、日本） 6. 保育者とはどのような存在か。 ◇ 上記のことを具体例を紹介しながら記す。 ◇ ビデオも上映し、解説する。	
【評価方法】 テスト	

「授業科目名」 保育原理 I	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 1年 後期	
<p>「授業目標」</p> <p>保育とは何か、保育の基本や原理的な問題などについて理解を深め、自己の保育観を形成していく上での基礎・基本について学ぶ。同時に保育の進め方の原則、保育内容・方法の概要についての知識・理解を得る。</p>	
<p>「テキスト・参考書」</p> <p>「保育原理」I 保母養成講座・改定版 全国社会福祉協議会</p>	
授 業 計 画	
<p>保育理念について学ぶと共に、幼稚園・保育園における保育の在り方について基本的な理解を深める。また、保育所保育指針について構造的に考究し、その考え方と内容について学ぶ。同時に、現在の保育需要の多様化と社会的背景と保育制度や福祉についての情報を伝え現実的・实际的な理解を深める。そのために、テキストによる講義、問題に対する討議、OHP, VTR, などによって授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の本質 2 保育の場 (家庭、保育施設、) 3 保育所保育の原理 (特性、目標、方法、保育の環境) 4 保育所保育の内容 (内容構成、ねらい、内容、領域) 5 保育所の保育計画 (指導計画、種類と役割、作成) 6 3歳未満児の保育内容と指導計画 7 3歳以上児の保育内容と指導計画 8 保育形態・評価 9 健康・安全上の留意事項 10 特別保育事業実施上の留意点 11 家庭、地域などとの提携 12 保育所保育指針、幼稚園教育要領 	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の進行状況に伴う、小レポート 2、期末にペーパーテストを行う 	

【授業科目】 保育者論	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1、教職についての意義を理解する。 2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。 3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。 4、望ましい保育者像を明らかにする。	
【テキスト】 ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊	
【参考書】 同 上	
授 業 計 画	
1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。 2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。 3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ) 4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ) 5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ) 6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ) 7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ) 8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ) 9、保育者の体験論から学ぶ。 10、保育者として問われる力量を学ぶ。 11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。	
【評価方法】	

【授業科目名】 教育原理	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）	
授 業 計 画	
<p>講義の中心となる主な事項は下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の教育の現状と問題 2. 人間と教育 3. 教育の意味と目的 4. 教育の場 — 家庭、園、学校、社会 5. わが国の教育の歴史 （主として明治以降） 6. 同 上 7. 第二次世界大戦後の教育の歴史 8. 教育基本法の成立とその思想 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 10. 幼稚園教育要領 11. まとめ 	
【評価方法】 学期末に試験を行う	

【授業科目】 教育原理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 ① 保育・教育の思想について知ること ② 前期の基本論の上に、保育・教育の方法、形態、について知ること。 ③ 現在の保育・教育の社会的課題、制度的課題について知ること。	
【テキスト】	
【参考書】 『教育と学校を考える』 勁草書房 (岡村遼司 他編)	
授 業 計 画	
① 保育・教育の思想について(1)保育・教育思想とは何か。主な思想の流れについて。 ② 同上 (2)ルソーの思想について ③ 同上 (3)ペスタロッチーの思想とその生涯について ④ 同上 (4)フレーベルの思想について ⑤ 日本の保育・教育思想(倉橋惣三、城戸幡太郎について) ⑥ 保育・教育と発達哲学との関係について(発達と人間) ⑦ 保育・教育の適時期について ⑧ 保育・教育と発達課題について ⑨ 保育方法について ⑩ 保育形態について ⑪ 子ども像の諸問題について	
【評価方法】	

【授業科目名】 発達心理学 I

【担当者】小松 歩

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎知識を学ぶことをとおして、「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえ、援助のあり方を考えることができる力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

参考書：授業のなかで適宜紹介する

授 業 計 画

「子どもが好きだから」という理由だけで保育をすることはできない。

多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。

人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。子どもと関わる場合には、全年齢を見通したライフ・サイクルの視点から、その人のいまの姿・行動がどうあるべきかを判断し、適切な援助をすることが求められる。

本講義では、乳児期から児童期までの子どもの発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）とそれをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。

プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、ひとりひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。

およそ、以下のような項目にそって進める。

- ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味、「生涯発達心理学」
- ②発達のメカニズム
- ③乳児期の子ども（0～2歳）の発達の特徵
- ④対人関係の発達（愛着行動を中心に）
- ⑤ことばの発達（ことばを獲得するための基礎）
- ⑥幼児期前期の子ども（3，4歳）の発達の特徵
認知、自己認識、思考の手段としてのことばなどの特徴
- ⑦幼児期後期の子ども（5，6歳）の発達の特徵
認知、行動調整の手段としてのことばなど

【評価方法】

期末試験による

【授業科目名】 発達心理学Ⅱ	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>発達心理学Ⅰで学んだ「発達」に関する基礎知識をもとに、乳幼児の発達しつつある姿をより実践的に捉えるとともに、保育の場面において発達を的確に「評価」する力を養う。また児童期、青年期の発達の特徴についても理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。</p> <p>本講義では、発達心理学Ⅰで学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。</p> <p>また、幼児期以降の発達の特徴（児童期、青年期）についても概説し、生涯にわたる人間の発達について考えたい。</p> <p>後期は、およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児期、児童期における「遊び」の発達とその意義 ②児童期の子どもの発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 認知の特徴、社会性の発達 ③青年期以降の発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 自己認識、性役割など ④発達と不適応 ⑤発達評価の意義と方法 ⑥まとめ <ul style="list-style-type: none"> 乳児期から児童期までの子どもの姿と発達課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験による</p>	

【授業科目】 教育心理学	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 後 期	
【授業目標】 子どもがいかによりよく学び(学習)、いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を学ぶ。	
【テキスト】 授業のなかで、適宜、提示する。 事例で学ぶ教育心理学(杉原他編著)	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>人間は社会的存在であり、環境との相互作用のなかでの学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この相互作用がよりよく実践するように行う働きかけ、つまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。</p> <p>具体的には以下の点について、保育実践の例を取り上げながら進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を育てる－発達と教育 <ul style="list-style-type: none"> ・発達とはなにか ・発達における経験と学習－保育のなかで育まれるもの 2. 学ぶ－学習の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・学びのさまざま－学習の種類 ・学習とはなにか－学習理論 ・じょうずに学ぶ－学習の規定因・動機付け 3. 教える－学習指導法 <ul style="list-style-type: none"> ・教えたかさまざま－教授法の種類と保育実践 ・じょうずに教える－学習モデルと最適化 ・個人差への配慮と保育実践 4. はかる－教育評価 <ul style="list-style-type: none"> ・知的能力をはかる ・人間をはかる 5. 性格を育てる－性格形成と教育 <ul style="list-style-type: none"> ・性格を知る ・性格はつくられる－保育実践から考える 6. 仲間とともに－仲間集団・学習集団 <ul style="list-style-type: none"> ・集団の構造をはかる－ソシオメトリ－他から実践を見る ・仲間関係をつくる－トラブルの「発生」と「解決」から見る子どもの育ち ・仲間関係が育てるもの－社会的コンピテンス ・集団を動かす－自己主張と自己抑制をめぐる子どもの育ち 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 定期試験 ② 授業の中で、小テスト(2回)実施。 ③ 出席点 <p style="text-align: right;">から総合評価する。</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅰ	【担当者】 谷俊治
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説するつもりです。特に小児では、心身両面からの健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】 今村栄一・巷野悟郎 編著「新・小児保健」 診断と治療社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>馬場一雄 「子育ての医学」 東京医学社 内山源 編著 「保育のための小児保健ハンドブック」 ぎょうせい</p>	
授 業 計 画	
<p>人間は、生物的存在から出発して、生物的存在→生物的存在・心理的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在・人格的存在（精神的）存在へと成長・発達してゆきます。そのプロセスを理解しながら、成長・発達のいろいろな側面を学んでいただき、その途上で起こるさまざまな問題について解説する予定です。身体発育や運動の発達のような目に見えるものを知るだけでは片手落ちです。目に見えない心の発達やその歪みを読み取ることも、保育者にとって大切なことです。心の悩みは、乳幼児では身体の病気や行動の異常として現れてきます。また、乳幼児は体の機能や抵抗力が未熟ですので、いろいろに病気にかかりやすいのです。</p> <p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回用紙を配って質問や意見などを書いていただきます。（これが毎回のレポートとなります）次の時間はねその質問の答えから始めることにします。一方交通の授業にならないよう皆様のご協力を期待しています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート（毎回のレポートと期末の課題レポート）で評価します。</p>	

【授業科目】 小児栄養	【担当者】 酒井治子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児期において、栄養は身体発育の材料であり、精神・心理発達を援助していく。月齢が小さければ小さい程、保育者がどのように食事に関わろうとするかが重要となってくる。</p> <p>この授業では、乳幼児の食べる行動の発達過程を理解し、それに即した栄養必要量・献立及び調理形態を学ぶ。と同時に、食品の栄養素が生体の中でどのように代謝し、どのような機能を果たしているか、乳幼児の栄養生理の特殊性を理解できることを目指す。保育所や幼稚園で給食の提供や食教育がどのように行われているか、具体的な例を示しながら進めていく予定である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>二木武, 北郁子, 高野陽, 水野清子著 「小児栄養」 医歯薬出版 香川芳子編 「四訂 食品成分表 1999」 女子栄養大学出版部</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 小児期の栄養の重要性</p> <p>2. 発達栄養生理と、発達に適した環境づくり</p> <p>3. 小児の栄養代謝</p> <p>4. 保育所での給食と食教育</p>	<p>1)摂食機能（咀嚼・食具使用）の発達 2)消化・吸収機能の発達 3)排泄機能の発達</p> <p>1)小児の身体発育と栄養所要量の意義 2)エネルギー消費量と生活行動との関連 3)栄養素（糖質，脂質，タンパク質，ミネラル，ビタミン等）の機能と食品による供給源 4)母乳・人工栄養，離乳食，幼児食の食事構成</p> <p>1)保育所の給食 2)保育所保育指針にみる食事の考え方と食教育</p>
<p>【評価方法】</p> <p>①授業への出席及び態度，②筆記試験，③レポートの内容により，総合評価する。</p>	

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】佐々加代子・小松 歩・喜多村純子・師岡 章
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期（9月集中）	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は通年科目であるが、9月に集中演習を行なうので、1年の半期で終える。入学後間もない保育科学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に「子どもおよび保育」を学ぶことに対する関心をより広げ、より深める動機づけとなることを目標に開講している。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書 ①高杉自子・森上史朗他著 「保育内容総論」東京書籍 ②大場牧夫・民秋言・吉村真理子編著 「保育内容総論」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業は、保育を多角的に理解することをガイドするために、心理学分野・教育学の分野・保育内容・保育現場から、それぞれ一人ずつ計4名の教員によって進められる。講義内容はおよそ以下のとおり。</p> <p>■講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに ——この科目の方針、他の科目とのつながりを知る—— 2. 幼稚園・保育所の保育の共通理解について (参考文献 ② 序章をもとに) 3. 今、幼稚園・保育所に求められていること 4. 子どもを知ろう——幼稚園の現場から—— 5. 子どもと保育者——大人・保育者の役割—— 6. 7. 子どもの行動——行動類型と特性①—— 8. 子どもの行動——行動類型と特性②—— 9. 子どもの行動助成——保育援助の内容と方法 総論—— 10. 子どもの行動助成——幼稚園保育における援助の内容と方法—— 11. 子どもの行動助成——保育所保育における援助の内容と方法—— 12. まとめ 集中演習のオリエンテーション <p>■演習</p> <p>実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育実践、環境を事例としてグループで推論・観察・考察を行なう。1単位分を集中演習形式で学修する。</p> <p>第1日：学内での講義と演習 第2日：幼稚園あるいは保育園を選択して演習 第3日： 同 上 第4日：学内で考察・まとめを行なう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点 ②演習レポート</p>	

【授業科目名】 保育内容 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事項について理解させるとともに、それらを保育実践に活用するための能力と態度を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康問題と健康保育、保育者の健康管理 2) 子どもの保健管理の考え方と方法 3) 子どもへの保健指導の考え方と方法 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 参考書 米谷光弘編著：健康 理論編、保育出版社、1995年。 小林芳文編著：乳幼児健康保育学、福村出版、1993年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち保健分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①小児健康論（子どもの健康と健康保育）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの健康問題 2、保育者の健康問題 3、保育施設における保健活動 4、保健管理の内容と方法 5、保健管理の実習（主として環境管理） 6、保育施設における保健指導 7、保健指導における指導内容、教材及び指導技術 8、保健指導のための教材づくり実習（模擬指導を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート（教材づくり）、学習意欲</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅰ（言語行動）	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 佐々加代子、保育者養成における言語 1999年、私製テキスト 佐々加代子監修、手あそび130、私製資料</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語：言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像（0～6歳まで） 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど） 9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録（レポート） 2) 日案（レポート） 3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房）</p> <p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達の重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期の子どもの発達と保育 <ul style="list-style-type: none"> 0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 2歳の発達の特徴と保育 2. 乳児保育の内容と方法 3. 乳児保育をどうとらえるのか <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育をめぐる思想・理論的問題 4. 乳児保育の歩みと現状、課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・テスト</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。
【テキスト・参考書】	テキスト : 下総院一「楽典」
授 業 計 画	
音	音の種類と性質
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符 付点休符・縦線
音 名	拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号 シンコペーション・連符・タイ
音 程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程
音 階	長音階：調号（#、b）4 個迄 短音階：調号（#、b）4 個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階） 音階各音の名称（主音・下属音・属音・導音）等
調	調と調号 調の相互関係
移 調	学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンをこまかく指導する
和 音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音 主要三和音の転回・属七の和音の転回
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo(D. C)・Dal Segno(D. S)・スラー・テヌート スッカート・トリル・フォルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等
【評価方法】	期末試験の成績

【授業科目】 音楽Ⅰ（基礎技能）ピアノ	【担当者】秋山治子他17名下記参照
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>授業目標は主として鍵盤楽器の演奏力の基礎を身に付け、保育者としての音楽的実践力を養うことに主眼を置く。</p> <p>授業方法は個人レッスンの形態をとり、Ⅰ～Ⅴ段階のグレード制を採用している。</p> <p>音楽Ⅰ（ピアノ）は1年半の開講期間を通して行う。初心者は少なくとも第Ⅲグレード合格を目標に（初心者の多くは第Ⅳグレードまで到達して終了している）努力してほしい。</p>	
<p>【テキスト】 テキストは共通の教材である「ピアノ・メソッド」を使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>[単位取得の基準について]</p> <p>①第Ⅲグレードの合格をもってピアノの単位を取得できる（65～70点）</p> <p>第Ⅲグレードの試験曲はピアノ曲1曲とスケール・カデンツおよび幼児曲1曲の計3種である。ピアノ曲は次のA、Bのうちのどちらか1曲を選ぶこと（A “見知らぬ国” B “ワルツ”）</p> <p>また幼児曲は全学生共通のプリント（担当教員に聞くこと）から1曲を選ぶこと。</p> <p>[試験の受け方について]</p> <p>他の科目と同様、定期試験（1年2回、2年1回）において実技試験を受ける。1回につき1ランクのグレードしか受けられない。不合格になった曲については、改めて授業中に担当者のもとで合格するまで何回でも受験できる。</p> <p>試験曲はⅠグレードはピアノ曲1曲のみ、Ⅱグレードは（テキスト中の決められた）ピアノ曲1曲とスケール・カデンツ。</p> <p>Ⅳ、Ⅴグレードはピアノ曲1曲と幼児曲1曲の合計2曲である。</p> <p>Ⅳ、Ⅴグレードで弾く幼児曲は全学生に共通の課題制となっているが、ピアノ曲は自由に選んで受ける。ただし1年次に受験する時はテキスト中の曲しか選べない。2年次に受験する時には、テキスト、他の曲集いづれから選曲してもよい。</p> <p>*備考</p> <p>Ⅰ、Ⅱグレードの範囲についてのみ、一回目の定期試験前に終了した人は授業中に担当教員の審査で試験を受けることができる。念を押すがⅢグレード以降は定期試験で受験しなければならない。定期試験を受験した場合のみ、不合格の再受験を授業中に受ける資格がある（定期試験の欠席理由は一律に扱い、出席扱いになるものは無い）</p> <p>Ⅲ～Ⅴまでのグレードを進む毎に得点が高くなる。最終的にピアノ曲と幼児曲のどちらかが不合格で終わった場合には、それがⅢグレードであれば再試験となり、Ⅳ以上の場合には再試験は無く得点が少し低くなる。</p> <p>[再試験について]</p> <p>2年次の定期試験でⅢグレードを合格しなかった人は（次の年の2月に行われる）1年生の定期試験の日に1年生と一緒に受験すること（詳しくは掲示する）</p> <p>試験曲については前もって連絡するが、幼児曲は必ず弾くことになると思ってほしい。</p> <p>[音楽Ⅰの中に総合評価されることについて]</p> <p>音楽Ⅰの成績評価は「声楽、基礎理論、ピアノ」を総合評価したものになる。3種目それぞれが合格ラインを越えただけでの総合評価となるため、ピアノの再試験を落とすと音楽Ⅰの評価が出ないことになるから頑張してほしい。</p> <p>【担当者】秋山治子・稲村敬子・岡益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・平さわ・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・福島省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由起子・泉晶子</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="padding-left: 150px;">テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p style="margin-top: 20px;">* 1講時につき ソルフェージュ 15曲 2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】 平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅰ	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・枝常 弘
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とする。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行なう。(花原・枝常)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解する。(八木)</p>	
<p>【テキスト】 特に使用しない</p>	
<p>【参考書】 特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面を描く、つくる基本について 6. 立体を描く、つくる基本について 7. 造形と遊びと科学の関係について <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形・表現について理解する 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育 2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に 3. 認識と想像の表現と援助 4. 表現を育む環境と援助 <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行なう</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅠ	【担当者】 専任教員・八木・堀江
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
後日、配布します。	
【評価方法】	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 加宮 葵・師岡 章
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：『実習ガイドブック』・『幼稚園実習日誌』必携 参考資料として、各実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなど適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ</p> <p style="padding-left: 40px;">幼稚園の「日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">② 保育者の活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p style="padding-left: 40px;">① 幼稚園実習とは（全般的説明）</p> <p style="padding-left: 40px;">② 幼稚園の現場から</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 実習日誌の書き方</p> <p style="padding-left: 40px;">④ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講</p> <p>② 実習日誌</p> <p>③ 実習中の出欠席</p> <p>④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹ほか
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育士資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト】 「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変る場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 事務手続オリエンテーション（全実習） 実習園の一覧表、実習生記録（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。</p> <p>II. 実習園の配属 学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。</p> <p>III. 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義） 実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。 2. 実習日誌の書き方 1)日誌を書く理由、2)日誌を書く目的、3)日誌を書く上での諸注意、4)記録のポイントなど。 3. 実習の心構えと具体的注意事項 1)実習への抱負や課題、2)実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。</p> <p>IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義） 保育所の職務内容 保育の日課 1)日課とは、2)日課の意義、3)日課に関わる条件、4)3歳未満児クラスの日課の特徴、5)幼児クラスの日課の特徴。</p> <p>V. 実習生を受け入れて（講義） 保育所現場から 1)子どものこと、2)保育のこと、3)保育者のこと、4)保育所のこと、5)実習とは、6)実習生に望むこと、7)学んでほしいこと、8)実習での諸注意など。</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実 習 11月15日（月）～11月26日（金） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>VII. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。</p> <p>VII. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに、保育士資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と保育の流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、年齢ごとの子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法に関しても具体的に学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。</p>	
<p>【テキスト】 「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携 参考資料として各園から出されている施設概要・園便りなどのパンフレット</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は11月15日(月)から11月26日(金)の10日間行われる。</p> <p>1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ「実習指導」への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

專門教育科目（2年）

【授業科目】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における援助技術の定義と位置づけ 2. 社会福祉援助技術の専門性 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) ケースワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) グループワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニティワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) その他 (ソーシャルリサーチ、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルプランニング、ソーシャルアクション) 5. 関連援助技術 (ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、カウンセリング) 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。</p>	

「授業科目名」保育原理Ⅱ	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 2年 前期	
<p>「授業目標」</p> <p>1年時の保育原理Ⅰ、及び保育実習などを通して得た知識や理解の上に立って、保育所における保育の実際について理解を深める。そのために、保育所保育の評価の観点を明確にして、保育内容等の在り方について具体的・実際的な理解を深める</p>	
<p>「テキスト・参考書」</p> <p>「保育内容等の自己評価」のためのチェックリスト、（保母編）全国社会福祉協議会</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>学生は、保育実習を通して保育所を概括的に理解しているだけで実践的・具体的な経験も乏しいのは当然である。しかしチェックリストの各項目について解説を加えながら、自己の保育を見直す視点を持つことは保育所保育を具体的に実践的に理解する手がかりとなる。特に、保母編を検討することで保育内容等がより明確になり保育所保育の全体像をより深く理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、自己評価の意義と方法 2、自己評価を通して、より確かな保育実践への手がかりをつかむ 3、各項目について、何故この項目が必要なのかどんな意味があるかを考究することによって、保育実践の、ポイントを理解する 4、チェックリストの各項目について解説すると同時に、討論等によって自分の考えを出すことで理解を深める 	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、進行状況に伴う、小レポート 2、課題を出し、その解答を求める 	

【授業科目名】養護原理Ⅰ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ②児童福祉施設入所児童の社会的家族的背景の理解 ③養護実践の基本原則・・・事例から学ぶ養護原理</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社1997年 参考書：養護施設は今編集委員会『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「養護原理Ⅰ」で何を学ぶかー子どもの現状、施設論 2. 里親制度の現状と課題 諸外国の児童養護の現状とわが国の現状、課題 3. 児童養護の歴史とホスピタリズム論 わが国の児童養護の歴史、児童の変化、養護論の検証とホスピタリズム論の克服について 4. 児童福祉施設各論－A養護系施設 児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設 5. 児童福祉施設各論－B障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設 6. 児童福祉施設各論－C治療系施設 情緒障害児短期治療施設、（虚弱児施設） 7. 児童福祉施設各論－Dその他 自立援助ホーム 8. 児童福祉の理念と児童福祉施設の水準 諸外国の児童福祉施設の現状と国際的水準、わが国の位置と役割 9. 施設条件の現状と今後の展望 児童福祉施設最低基準、児童福祉法改正、子どもの権利条約 10. 施設労働の実際と児童への援助関係における関わり方 養護原理の基本に結びつけて 11. 児童養護の原理と課題 養護原理を項目的に整理し、課題を検討する 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】養護原理Ⅱ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ ②施設入所児童をめぐる生活課題と援助内容を深める ③施設養護の今日的な課題への理解と施設職員として必要な事項を深める 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫共編『児童養護の変革』朱鷺書房、1997年</p> <p>参考書：浅井春夫編『子ども虐待シンドローム』恒友出版、1995年</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利条約と養護原理 権利条約の歴史的意義と内容の理解、子どもの権利の現実 2. 児童養護における日常生活の意義 入所前の無権利状況から権利を守る生活への手続きと配慮、基本的生活習慣の習得と大人との関係 3. 高年齢児の養護 思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応 4. 子ども虐待の現状と発見・援助内容 諸外国とわが国の現状、定義と分類 性的虐待の現実とその社会的背景、虐待を受けた子どもへの対応、援助の基本 5. 性教育の基本的視点と生活の中の性教育 施設における性教育の展開、生活の中で進める視点 6. 子どもの自立の現状と援助内容 自立の時期の高年齢化と自立の内容、幼児期からの自立的養育 施設における自立支援・援助 7. 進路指導とアフターケア 進路指導の現状と課題、リービングケアの課題、アフターケアの現状と課題 8. 施設労働の現実と労働基準法 社会福祉労働の基本的視点、労働基準法問題の検討 9. 21世紀の児童福祉施設像の探究 児童福祉改革の動向と課題、求められる施設職員の専門性 福祉労働者の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】 臨床心理学	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】 現在の乳・幼児は発達初期における親の養育上の状況によって、様々な行動上の問題を持った子どもが増えている。これらの問題に対して具体的にどのように援助すればよいかを学習する。その過程で、臨床心理学の意義や方法等の理論及びカウンセリングの基本的な理解や技法にふれる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 「Q & A 子どもの心の健康相談室－0歳から6歳－」 村田保太郎著 平凡社</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、0歳から6歳までの各年齢段階で、実際に起きた事例をとりあげて、臨床的に解明する。 2、事例研究法によって、各自の考えや意見を出し合い事例の本質に迫る。 3、問題となる子どもの行動に対して、その原因の究明、保護者に対する援助や助言の基本を学ぶ。 4、ロール・プレイングによって、各自が相談者と面接者の役割を演じることによって、保育者として現場に立った時の実践力をつける。 5、講義及び、臨床的な問題に対するケース・スタディの方法等実践的、実力的な力を養うこともねらっている。 6、子どもの成長・発達と「発達課題」などについて、臨床心理学の立場から理解を深め、保育の実際に役立つような力を養う。 	
【評価方法】	<ol style="list-style-type: none"> 1、ロール・プレイングの実際場面の評価 2、ケース・スタディの実際場面の評価 3、進行状況に応じて、小レポートを出す。

【授業科目】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷俊治
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説するつもりです。障害児にとっても心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】 徳田克己・遠藤敬子「ハンディのある子どもの保育ハンドブック」 福村出版</p>	
授 業 計 画	
<p>精神薄弱児（知的発達障害児）、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保育のために必要な知識について、医学や心理学、保育や福祉の立場から解説します。障害児のQOL(quality of life)を高めるためには、家族のみではなく、いろいろな機関でのいろいろな職種による発達支援のサービスが必要になってくるのです。障害児の様子はVTRで学んでいただきます。</p> <p>毎時間、授業の終わりに用紙を配り、質問や意見を求めます。（これが毎回のレポートです）次の時間は質問に答えることから始め、一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので協力して下さい。</p>	
<p>【評価方法】 レポート（毎回のレポートと期末の課題レポート）で評価します。</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 水波 佳津子
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業目標】 子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。	
【テキスト】 坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編) 『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社	
授 業 計 画	
<p>○講義</p> <p>I オリエンテーション 乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について 子どもの養護と自立→健康発達への支援</p> <p>II 健康状態の観察 A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠) B 身体各部の観察</p> <p>III 小児に起こりやすい症状とその対応 ・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水</p> <p>IV 小児に起こりやすい事故 ・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷 ・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲 ・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒</p> <p>V より健康な子どもを育てる ・積極育児、赤ちゃん体操、外気浴、日光浴 ・個人、集団の健康管理と記録</p> <p>VI 保育者自身の健康管理</p> <p>○実技・実習</p> <p>I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方 おむつのあて方、おんぶ抱っこの仕方)</p> <p>II 身体発達、測定の方法、評価の仕方 ・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習 ・発育指数 a パーセントイル曲線 b カウプ指数 ・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について</p> <p>III 病気や異常の見分け方、病児の世話 ・重症であるかどうか保育者としての見分け方 ・体温、呼吸、脈拍測定の実習 ・薬の飲ませ方 (散薬・水薬の飲ませ方の実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明) ・薬の保管 ・症状処理等の記録</p> <p>IV 感染予防 予防接種 発見と隔離 消毒法(理学的化学的消毒法)</p> <p>V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。 (実習終了後、意見・考察・感想文提出)</p>	
【評価方法】 ①筆記試験 ②沐浴、身体測定の実習評価 ③授業時の平常点、感想文	

【授業科目】	小児保健実習	【担当者】	伊藤祥子
【開講期】	2年 前期・後期		
【授業目標】	乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んだりしているときに、転ぶ・ぶつかる・落ちるなどの事故で怪我をしたりまた急に発熱・ひきつけなどの身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときに、あわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を学んでもらうことを目標とする。		
【テキスト】	乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター付属乳幼児院編）		
【参考書】	赤十字急救法教本	日本赤十字社	
授 業 計 画			
1	乳幼児に起こりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。		
2	救急法の実際		
	病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（F i r s t ・ A i d）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。		
	下記5つの項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習をさせる。		
★	事故防止と安全教育・救急箱の利用		
★	体位（寝かせ方）異物除去		
★	傷の処置・止血法		
★	救急蘇生法		
	（気道内異物除去・気道確保・人工呼吸法・心臓マッサージ）		
★	包帯法		
	（三角巾・巻軸帯・副子の当て方）		
	実習では、学生が実際に、患者・術者を体験しながら学習をしていく。		
【評価方法】	筆記試験 授業時の実習評価		

【授業科目】 小児栄養実習	【担当者】 酒井治子
---------------	------------

【開講期】 2年 前期

【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要であるのかを理論と実習を通じて学ぶ。

【テキスト】 二木武, 北郁子, 高野陽, 水野清子著 「小児栄養」 医歯薬出版 香川芳子編 「四訂 食品成分表 1999」 女子栄養大学出版部

【参考書】

授 業 計 画

テーマ	実 習
1. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1)受精による母体の変化と胎児の成長 2)妊娠期・授乳期の栄養の特性と疾病(つわり, 貧血, 妊娠中毒症等)との関連
2. 乳汁期の栄養と食事	1)新生児の発育と乳汁量 2)母乳栄養の特徴及び授乳法 3)人工栄養の特徴及び授乳法
3. 離乳期の栄養と食事	1)離乳の意義 2)歯の萌芽と咀嚼行動の発達 3)離乳食の進め方とそれに即した食具・食器
4. 幼児期の栄養と食事	1)幼児期の栄養の特徴と食習慣の確立 2)食行動の発達とそれに適した食具・食器
5. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1)学童期・思春期・青年期の栄養・食行動の特徴 2)各児童福祉施設の食事の特徴
6. 成長期の栄養と食事の評価	1)身体発育と栄養状態の評価 2)疾患(齲齲, 食物アレルギー, 小児成人病等)と栄養 3)子ども自身による自発的な食事・健康観を育てるには

【評価方法】 ①授業への出席及び態度, ②筆記試験, ③レポートの内容により, 総合評価する。

【授業科目名】小児栄養実習		【担当者】 田原喜久江	
【開講期】 2 年 前期			
【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要かを理論と実習を通して学ぶ。			
【テキスト・参考書】 小児栄養実習担当者が作製したテキストを使用			
授 業 計 画			
テーマ	実 習		
1. オリエンテーション	1) 調理実習室での実習にあたっての基本的心得と衛生的配慮, 調理器具の正しい扱い方を学ぶ。		
2. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1) 20代女子の1日の食事を基本にして、妊娠・授乳期の食事展開を行い、食品や食事の配慮を学ぶ。加えて、自分の食生活の在り方を学ぶ。 2) 妊娠期におきやすい、つわり、便秘、貧血、妊娠中毒症の食品選択, 調理方法を学ぶ。		
3. 授乳期の栄養の栄養と食事	1) 各種の育児用ミルク, フォローアップミルクの特徴を知り、無菌操作法による調乳法を実習する。 2) 母乳栄養・母乳哺育に関わる冷凍乳の扱い方を実習する。 3) 離乳準備食としての果汁・野菜スープを実習する。		
4. 離乳期の栄養と食事	1) 離乳の基本をもとに、乳児の摂食機能・感覚機能・運動機能の発達に伴う離乳食の進め方を初期・中期・後期・完了期にわけて実習する。特に乳汁と離乳食の摂取割合, 調理形態, 味付けの変化を中心に調理展開する。 2) 乳児に適した食器具と与え方を学習する。		
5. 幼児期の栄養と食事	1) 幼児の発達年齢別に生理機能・摂食機能・心理面の発達に応じた食事を同一の食素材を用いて実習し、その配慮点を学ぶ。 2) 幼児に適した食器具と調理形態の関連を学び、与え方を学習する。		
6. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1) 児童福祉施設の中で養護施設を取り上げ、一日の食事、子供たちが参加できる料理, 及びおやつの実習を行う。 2) 食習慣形成の自立期としての食事マナー, 食事環境の在り方を学ぶ。		
【評価方法】			
1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出 2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出 3. 実習態度等の平常点			} 3点の総合

【授業科目】 精神保健	【担当者】 工藤行夫
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神的健康の保持、増進をはかり、精神障害を予防、治療する諸活動が精神保健である。WHOの健康の定義に「身体的、心理的、社会的にwell-beingの状態にあること」とあるように、身体レベルから社会レベルまで広い領域が含まれる。精神の発達段階（ライフサイクル）に応じたそれぞれの精神保健を、臨床的知見を交えながら検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>武正建一編『精神医学サブノート』（南江堂）</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね以下の項目について授業を進める予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康、精神の発達 2. 心身相関、心身症 3. 精神力動、神経症（ノイローゼ） 4. 小児の心性、自閉症 5. 思春期の心性、思春期やせ症 6. 精神分裂病（1） 7. 精神分裂病（2） 8. 退行期の心性、躁うつ病 9. 薬物依存、アルコール依存 10. 老年期の心性、老年期痴呆 11. 社会との関連、精神鑑定 12. 日本の精神医療 	
【評価方法】	

【授業科目名】 教育課程総論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 主に幼児の教育課程の在り方について、基本的な内容と、具体的な事柄について知ること。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>教育課程の在り方を話す。まず、教育課程の語源と意味、必要性について話す。</p> <p>その上で、教育課程について考え、編成するための様々な知識について話す。</p> <p>たとえば、生活の概念、保育の構造、倉橋惣三の保育構造論、あそび、行事、仕事（労働）、個と集団との関係などについて話す。</p> <p>それらの間に幼稚園実習のために「指導計画案」の立て方について話す。</p>	
【評価方法】 テスト	

【授業科目名】 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保母資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連-共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目】 環境 I (自然認識)		【担当者】 近藤正樹・小作明則	
【開講期】 2 年 前期			
【授業目標】 子どもたちは、自然環境の中で、自然物・自然現象に出合っ、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験を適度に提供できる保育者を養成するために必要な基礎知識と体験の先行学習と教育方法を含み、保育現場で底力が発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。講義ばかりではなく多くの実習体験を組み合わせて不得意を得意に導きたい。			
【テキスト】 テキストは使用しない (プリントを配布する) 参考書は演習や講義ごとに紹介する (基本的なものは大学図書館にある)			
【体験学習】 休日 (5月1日～5月5日) のうち1日を野外実習にあて、神奈川県真鶴町の磯で体験学習を行う。			
授 業 計 画			
4月 6・7日	幼児のための環境設定の栽培 (講義と演習) 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画		
4月 13・14日	幼児のための環境設定② (講義) ムシに強くなるう 飼育の要点 正解は観察としてみる		
4月 20・21日	植物にあかるい保育者になるために① (演習) (雨天の場合、次週分の講義と演習) 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る		
4月 27・28日	植物にあかるい保育者になるために② (講義と演習) 検索のしかた・図鑑の使い方 顕微鏡の使い方 花の構造の観察とスケッチ		
5月 11・12日	ムシを知っている保育者になるために① (講義) ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活		
6月 8・9日	ムシを知っている保育者になるために② (演習) 昆虫(アリ)の構造観察とスケッチ		
6月 15・16日	「これなあに」に強くなるために (講義) 認識と質問の関係 概念形成の質問と対応のしかた		
6月 22・23日	「どうして」「なぜ」に強くなるために (講義) 知識拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「うその話」 解答不能の扱い方		
6月 29・30日	自然の変化に気づく (講義) 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体物理現象		
7月 6・7日	「自然」とは何か (講義) 自然・人・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの		
7月 13・14日	自然保護と環境教育 (講義) 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題 環境教育		
【評価方法】 演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う。			

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動 a）	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。	
【テキスト・参考書】 【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	1) 教育理論編 ① 幼児教育における音楽について ② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について
表現としての音楽の認識 発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する	③ 表現としての音楽 ・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり ・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	2) 指導と実践編 ① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴] ② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	③ 幼児の楽器の指導 ・簡易楽器の特徴と奏法 ・基本リズムパターンの習得 ・年少児・年長児の合奏指導 ④ 幼児の創作指導と実践
指導計画・指導案を知る	⑤ 指導計画・指導案 ・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案（具体的なうたや楽器の指導計画） ⑥ 教材曲の実践例等
★全出席を原則とする。	
【評価方法】 期末試験の成績・特に出席点を重視する。	

【授業科目】 表現 I (文化行動a)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1) 表現 I (文化行動 a) の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動 a」とは</p> <p>(2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現にはどんな意味があるのか、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。</p> <p>①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解</p> <p>(3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。</p> <p>①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴</p> <p>(4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。</p> <p>①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現</p> <p>(5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する</p> <p>①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉かけ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p>	

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動b）	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助の内容と方法を理解する。そのための具体的な〈教材理解〉〈表現文化行動理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現行動は、身体を媒体にした音楽やダンスなどの表現文化行動（文化行動a）と、モノを媒介にする造形的な表現文化行動（文化行動b）の両方をミックスさせながら総合的に展開される。このことを視野に入れた上で、授業では後者の造形的な表現文化行動を中心に、その援助指導方法の基本を学ぶ。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現文化行動とは 2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 6. 総合表現の援助指導方法の理解 7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常授業での課題を評価する ・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価する 	

【授業科目】	環境Ⅱ	【担当者】	近藤正樹
【開講期】	2年 後期		
【授業目標】	<p>環境Ⅰ（自然認識）では教育方法にも触れぬはならず、保育者の自然認識体験を拡大するには限界がある。この事情をのりこえる企画として、身近な自然の認識体験の拡張も重点にそえた演習「武蔵野小動物図鑑」の作成をゴールとした総合活動（グループ作業を中心として）を行う。図鑑の使い方、顕微鏡の扱い方、接写写真の撮り方も含む。</p>		
【テキスト】	テキストは使用しない（プリントを配布する）		
【参考書】	<p>参考書として小動物の分類同定に必要な図鑑類を紹介する。 演習用として教室に、また貸出用として大学図書館に常備してある。</p>		
授 業 計 画			
9月29日	<p>グループ研究のすすめ方 テーマ「武蔵野の小動物図鑑」（講義） 分担研究の選定と企画；土壌中にすむ動物・草地にすむ動物・光に集まる昆虫の採集法</p> <p>この間に研究材料（小動物）の採集を教員の指導のもとで行う。（演習・グループ活動） 採集場所は雑木林とあき地の草むらとに分けて分担する それぞれの場所で罌蚊帳を用いた採集・土壌動物の採集・夜間の灯火採集に分けて分担する</p>		
10月6日	資料（小動物）の種類分け（sorting）（講義とグループ活動）		
10月13日	資料（小動物）の同定（identification）（グループ活動）		
10月20日	図鑑を使って検索する		
10月27日	接写写真・顕微鏡写真撮影の技術指導（演習）と同定の続き（グループ活動）		
11月17日	資料（小動物）の撮影と同定の続き（グループ活動）		
11月24日			
12月1日	武蔵野の自然①地形・地質・土壌・気象（講義）		
12月8日	武蔵野の自然②自然植生と都市化の歴史（講義）		
12月15日	「武蔵野小動物図鑑」の企画と作成（講義とグループ活動）		
12月22日	「武蔵野小動物図鑑」の作成（グループ活動）完成品提出		
1月12日	「武蔵野小動物図鑑」の作成経過と内容の紹介（演習・研究発表会）		
1月19日			
1月26日	武蔵野の小動物たち（講義）		
2月2日	地域学習と自然体験（講義）		
【評価方法】	<p>個人演習として、本学近郊の植生地図鑑りと野外実習レポート グループ演習として、「武蔵野小動物図鑑」の作成 それに加え平常活動の評価</p> <p style="text-align: right;">} これらの総合による。</p>		

【授業科目】 環境Ⅱ	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然教育と環境教育に立脚し、幼児教育の場としての自然を考える。「環境Ⅰ」で学んだ知識と技術を基に、私たちにとってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の観察の場、活動する場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
<p>【テキスト】 『小さな自然観察』 思索社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり・ふるさと感じる遊び事典・環境教育のすすめ等</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>野外実習</p> <p>I 講義</p> <p>II 講義と演習</p> <p>III 講義と演習</p> <p>IV 演習</p> <p>V 演習</p> <p>VI 講義</p> <p>VII 講義</p> <p>VIII 演習</p> <p>IX 演習</p> <p>X・XI 演習</p>	<p>春（4月）、秋（10月） 地形、植生、風景のスケッチ。動植物の採集と観察。</p> <p>この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。</p> <p>地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。高さ／距離を測る。</p> <p>土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。</p> <p>動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べリストを作る。生態や習性を知る。</p> <p>動植物の整理（2） 植物図鑑を作る。</p> <p>いきものにやさしい環境利用とは エコロジカルデザインーいきものと共生する町作りの例示紹介。</p> <p>子ども達にとってよい自然とは エンバイロメンタルヤードー子ども達自身のお手による生物と子ども達のための自然を作る。</p> <p>子どもの遊び環境を作る 里山の自然の中に子供の活動域を作る。同時に自然の保全を考える。 いきものと共生できる幼稚園（園庭・園舎）を作る。</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物や危険な動植物など。</p> <p>まとめ</p>
<p>【評価方法】 植物図鑑の作成 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点</p>	

【授業科目】 言葉Ⅱ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的・人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト】 菅井健、話しことばの練習帳、晩成書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
【参考書】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 他、随時提供する。資料としては1998年度までの作品集。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、用い方はより広がりを見せるようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. 創作話作成 保育で大切にしたいテーマとして創作話作成後パネルシアター、紙芝居、絵本などで表現する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚える。選出したものは小冊子にまとめる。</p> <p>表現作品発表会を最終授業で行う。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、グループでとりまとめて上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

[授業科目名] 表現Ⅱ (子どもの音楽)	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 後期	
<p>[授業目標]</p> <p>乳児期から幼児期へ子ども(人間)は自分の声を発声し→自分の声即ち歌声に気付き→自身の声をコントロールする面白さ(=これが歌う楽しさの基本)を体験して行く。同時に世の中の音を聞分け→色々なものから出る音の存在を認識、識別し→楽器という美しく整備された道具から出る音を知り→その音を出すことの出来る喜びを経験し→仲間と声や音を響き合わせる過程を楽しみ→音楽の形を創りあげた時の満足感、達成感を子どもなりに味わう。これら多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け支えていく。</p> <p>授業では幼児の音楽経験の順序性を重視しながら、子どもに無理のないより良い導き方を実践的に探ってゆきたいと思う。</p> <p>尚、子どもの歌曲は毎回うたう。</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>1 「おかあさん聞いて!先生歌って!」改訂版 秋山治子著、アイ企画、</p> <p>2 「表現」①② 高野雅子著 保育出版社</p>	
授業計画	
<p>1 オリエンテーション(教科書2冊、ノート持参のこと、授業の進め方、成績評価方法、注意事項)保育者として更に身に付けたい音楽の基礎力を身につける</p> <p>1 幼児曲をうたう</p> <p>2 美しい合唱曲をうたう</p> <p>2 各種打楽器に親しみ、音を出してみる、奏法等を知り、基礎練習をする</p> <p>3 3歳児クラスで歌いたい幼児曲にはどういうものがあるだろうか→皆でうたう</p> <p>これらの歌をどのような方法と計画の下で取り入れ、応用したらいいだろうか(歌うということにのみ拘らずに考えてみよう)</p> <p>4 4歳児クラスで歌いたい幼児曲にはどういうものがあるだろうか</p> <p>同上</p> <p>5 5歳児クラスで歌いたい幼児曲にはどういうものがあるだろうか</p> <p>同上</p> <p>6 手あそびで歌をうたうということと、幼児曲を歌うということは何がちがうのだろうか</p> <p>わらべ歌を保育に取り入れるということについても考えてみよう</p> <p>7 日本語の上に成り立っている“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している現代の幼児曲の本質的違いは何だろうか</p> <p>日本音階の基礎を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについて理解を深めたい</p> <p>8 楽器あそびとクラス全体で行う合奏は何がどう違うのだろうか、どの様な捕らえ方をしたらいいのだろうか、又音を探したり、音に気付いたり、音を作るといった活動と保育音楽とはどう繋がるのだろうか</p> <p>また正しい合奏譜を書くことのできる専門的知識を持っているだろうか</p> <p>9~12 保育の中で「子どもが音楽をたのしむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」ということの根は同じ?それとも異なることなのだろうか→世界の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについても理解を深めてみよう(教科書参照)</p>	
<p>[評価] 1 出席状況 2 レポートおよび提出物</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ (デザイン)	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスしながら、「デザイン」をしていきます。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして、楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインとは、ということなのか <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの意味や役割について ・デザインと社会の関係について 2. 子どものデザインの具体的内容について 3. 子どものデザインとその援助方法について <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとに 4. 計画デザインについて <ul style="list-style-type: none"> ・行事を企画することから実現までを通して 5. 保育者自身のデザインについて 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートに工夫してまとめたものを評価します。</p>	

【授業科目】 表現Ⅱ (ダンス)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、表現力を養う。又その文化的、教育的価値を認識する。さらに幼児の指導法についても理解する。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞(ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ(身体表現)や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成(3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 藤野敬子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児と共に生活や遊びを創りだしていく保育、家庭や地域と共に育ち合う保育について具体例を手がかりに学び、自分で計画を作ってみることにより、計画を立てる難しさ、工夫する面白さが体験できればと願っている。</p>	
<p>【テキスト】 「指導計画の作成と保育の展開」 文部省 フレーベル館 110円 「幼稚園教育要領」 文部省告示 ぎょうせい 76円+税</p>	
<p>【参考書】 参考資料 プリントして配布</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今の幼児には、これまでとは違う計画が求められている。従来のように、各々の年齢の、ねらいと内容をいつ、どのように実践に移すかという計画ではなくて、一人一人の子どもの自分探しの旅を扶ける営みとしての教育にふさわしい計画である。乳幼児の実態は、その子どもの置かれた環境や園生活のありようで、大きく変わる。もっと広い視野から乳幼児の発達筋道を見通し、さまざまな人間関係を考慮しながら計画していくものである。</p> <p>平成12年から施行される新幼稚園教育要領の趣旨を生かし、どのような保育によって、どのように幼児が育つか家庭や地域との連携を重視した計画を学んでいきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の計画とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境による教育の計画 (2) 乳幼児をとりまく今の環境と環境の中に込められている保育者の願い (3) 一人一人の気持ちにそい、共に生き、共に育ち合う園生活の計画の立て方 2 計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一日の計画作成 (2) 実習で実践した計画の検討 (3) 記録の取り方と計画の評価 3 これからの保育計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもと共に創りだしていく計画の楽しさ (2) 障害を負った人、老人、家族など多様な出会いの中で育つ計画 (3) 地域と共に生き、園も文化や自然を豊にする働きをする計画 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと日常のミニレポートや作成した計画などを総合して</p>	

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 米山千恵
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】 保育の計画の重要性や望ましい計画のあり方について理解を深め、保育の計画の諸問題を整理し計画作成に至る過程、立案上の要点、記録や評価について具体的な事例から学び、また計画を作成することを試みることによって保育の計画を身近かなものとしてとらえることを目標としたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 保育所保育指針 参考になる資料をプリントして配布する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期の幼児の計画の具体的な展開に続き、後期では乳幼児から就学前までの一貫性ある保育の計画を考慮しながらも主に3歳未満児にウエイトを置き、講義と計画の作成や検討、また実際の資料やスライド、VTRを使い授業を進めていきたい。</p> <p>◎ 子どもの自覚的、自主的活動を援助する保育の計画の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育計画、指導計画とは。 ・ 指導計画作成の要点。 指導計画の種類や内容、様式等について。 ・ 指導計画と保育条件。 ・ 計画の評価・記録。 <p>◎ 3歳児未満児クラスの指導計画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスとしての計画と個人、グループの計画。 ・ 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの指導計画の実際。 ・ 生活、遊びを計画するための基礎資料を学ぶ。 ・ 家庭から集団生活へ。 <p>◎ 実際に計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習で作成した指導計画を検討する。 ・ グループごとに、いろいろな計画の中からひとつを選びその年齢にふさわしい計画を作成してみる。〔生活、遊び、外遊び、環境（空間）、道具、行事、家庭との連携など〕 	
<p>【評価方法】 ミニレポート、レポート、作成した計画</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅱ

【担当者】 鈴木 佐喜子

【開講期】 2年 前期

【授業目標】

乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。

【テキスト】

【参考書】

授業時に紹介する

授 業 計 画

乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、演習形式を交えて、以下のよう
なことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点
を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育てていきたい。

1. 今日の親の労働実態と乳児保育
2. 子育ての現状と乳児保育
3. 乳児保育実践における子ども理解
食事場面での子どもの好き嫌いやかみつきへの対応などを切り口として
4. 乳児の保育実践の検討①
5. 乳児の保育実践の検討②
6. 乳児保育をめぐる思想的・理論的問題

【評価方法】

出席・レポート

【授業科目名】 養護内容	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ ②演習形式を通して、実践能力を養成する ③事例の検討を通して、施設児童の理解とケアの方法を学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：シンシア・ノモハン『傷ついた子どもの心の癒し方』講談社 参考書：浅井春夫編著『子どもの虐待シンドローム』恒友出版</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>上記のテキスト及び現場からの事例をふんだんに使い、具体的なテーマ及び場面に即して検討、ロールプレイを行い、実際に子どもたちとのコミュニケーションのあり方を実習し、子どもと関わることの深さを追求する。 事例についての分析・整理を分担し、共に検討し合う姿勢での出席が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識の交流、授業計画、方法の確認 2. 事例研究の方法 事例から何を学ぶか 3. 具体的な事例と検討・・以後与えられた事例またはテーマについてグループでレポートし、検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ①幼児の状況と事例 ②小学生の状況と事例 ③中学生の状況と事例 ④高校生の状況と事例 ⑤軽い障害を持つ子の事例 ⑥PTSDの事例 ⑦性的虐待を受けた子の事例 ⑧養護施設から変更される子どもの事例 4. 各機関とのネットワークを生かした取組 児童相談所、福祉事務所、保健所、心理学専門員、学校等との連携のあり方 5. 児童養護計画と具体的な内容作り 個別処遇計画、グループワーク、家族支援計画、アフターケアの取り組み 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と討議への積極的姿勢、分担のレポートへの責任</p>	

【授業科目】 障害児保育	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 前 期	
【授業目標】 1. 障害児の行動特徴や発達を理解し、保育や援助のあり方を学ぶ。 2. 障害児保育、主に、保育所・幼稚園における統合保育の実践について学ぶ。 3. 障害児が地域で生きるための地域支援と関係機関との連携システムについて考える。	
【テキスト】 【参考書】 授業の中で、適宜、提示する。	
授 業 計 画	
授業内容は主に、理念、制度、発達理解、保育実践から主要なテーマを取り上げる。特に、障害児の行動特徴を理解しながら、求められる課題はなにか、保育実践では何を進めるのかについて学ぶ。この時、これまで学習してきた発達心理学の知識を使いながら進めるので、基本を復習しておくこと。 授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。およそ、以下の項目にそって進める。 <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、障害児保育なのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーションとインクルージョン ・「いっしょの保育」における療育的視点と社会教育的視点から ・障害児地域支援事業の推進から 2. 障害って何？ <ul style="list-style-type: none"> ・「特別な発達ニーズをもつ子どもたち」の理解 ・「発達が気になる子どもたち」の理解について <ul style="list-style-type: none"> ・発達遅滞（知的障害）の発達特徴と保育実践 ・学習障害（特異性発達障害）の発達特徴と保育実践 ・注意欠陥／多動症候群（ADHD）の発達特徴と保育実践 ・運動障害の発達特徴と保育実践 3. 保育現場で何をすべきか <ul style="list-style-type: none"> ・「人」に受け入れられる大切さ（対人関係の援助に着目して） ・「遊びたい」気持ちの大切さ（意欲、自己発揮、自己決定に着目して） ・「手や足」「耳」「視覚」を育てる大切さ（運動・感覚の発達に着目して） ・「仲間」といること大切さ（仲間関係、他者理解の発達に着目して） 4. 障害児を受け入れる保育環境とは <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育室の大切さ ・居場所をつくること ・保育者環境の制度、政策から 5. 家族とともに地域で生きることを支援する <ul style="list-style-type: none"> ・家族の障害受容に関する理解とその援助 ・地域生活援助のシステム（学童保育、レスパイトサービス、他） ・専門的機関との連携 	
【評価方法】 ①授業の中で小テスト（2回）を実施する ②定期試験 ③出席点 から、総合的に評価する	

【授業科目】 家庭管理	【担当者】 野城尚代
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼす家庭生活の本質と機能を把握する。家庭生活を中心に、さらに社会に視野を広げながら、家庭生活の経営と管理に関する実態や問題点を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>白井和恵（編著）『生活の経営』（同文書院）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論（新版）』（有斐閣新書）など</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず、家庭生活とは何か、家庭生活の経営や管理とは何かについて学ぶ。そして、家庭生活を構成する家族について、世帯構造や意識の側面から家族の変化をとらえる。そのうえで、生活時間、家事労働と職業労働、家計の経済社会における位置と管理、消費生活と消費者問題について理解する。家庭生活と社会とのかかわりとして、コミュニティとの関係、少子・高齢社会、環境問題、情報化社会について考える。また、家庭生活を管理していく上で、離婚や病気や死亡などの危機も考えられるので、家庭生活の安定のための保障についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活の経営や管理 2. 家族の変化（世帯構造の変化、意識の側面など） 3. 生活時間 4. 家事労働と職業労働 5. 家計の位置と管理 6. 消費生活と消費者問題 7. 少子・高齢社会 8. 環境問題 9. 生活情報と家庭の情報化 10. コミュニティやボランティア 11. 家庭生活の危機 12. 家庭生活の安定と保障 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と期末試験あるいは期末試験に相当するレポートに基づいて評価する。</p>	

【授業科目】 音楽Ⅰ(基礎技能) ピアノ	【担当者】秋山治子他16名下記参照
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>“Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソッド以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「Piano method」 麓見五郎著 共同音楽出版社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>チェルニー100番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他</p>	
授 業 計 画	
<p>(概説) 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか?子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのでしょうか?ピアノは(アコーディオンもそうですが)旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまるやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも(シンセ)を別にして、ピアノしかありません。約200本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハープシコード”を短縮したもの。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。</p> <p>さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。</p> <p>① テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。</p> <p>② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。</p> <p>①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということはありませんが、特に初心者と中級程度の人には自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。</p> <p>【単位取得】 =①第Ⅲグレードの曲および音階を試験で合格する②試験で幼児曲を弾いて合格する。①と②両方の合格をもってピアノの単位を取得できる。</p> <p>①の試験曲は次の2曲のうちの到達できた曲を選ぶこと(Bの曲の方が得点は高く63点～70点までを配点する)</p> <p>A “見知らぬ国”</p> <p>B “ワルツ”</p> <p>I～Vグレードまでのグレード毎に得点が高くなるがⅢグレード以外の試験曲についてはそれぞれの担当教員に聞いて準備をすること。Ⅳ、Ⅴグレードの試験曲は“メソッド”から選んでもよく、他の曲集から選んでも良い。</p>	
<p>【担当者】秋山治子・稲村敬子・岡益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・平さわ・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・藤島恵子・舛本清美・山本由起子・藤間洋子</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】 惣田修・豊野雄次郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト ソルフェージュ 16 コンコーネ50番(中声用)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>①45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回くらいソロする事によって人前での演奏(無伴奏)に慣れる。</p> <p>②コンコーネを階名で練習をし、声区の転換と声と息のミックスを感じる為に、各母音でこまかく練習をする。又、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③コンコーネをこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④複雑な音程やリズムのパターンをファイルする能力を養い、読譜力、音楽表現力(正しいリズムや、音程をもって表現する能力)をも養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点、期末試験の成績</p>	

[授業科目名] 音楽Ⅱ(ピアノ)	[担当者] 秋山治子・稲村敬子・諏訪玲子・関根美和子
[開講期] 2年 前期・後期	
<p>[授業目標] 幼児歌唱教材を数多く取入れて、保育実践に即した即興伴奏法を身に付けるなど、音楽Ⅰで習得した演奏能力を応用力にまで高める。</p>	
<p>[テキスト・参考書] テキスト・「保育・幼児音楽教育のための キラッとマーチ」秋山治子、舩本清美ほか、共同音楽出版社 「おかあさん弾いて!先生歌って!」改訂版 秋山治子著、アイ企画、他1冊</p>	
授業計画	
<p>ピアノの初心者にとっては演奏技術を更に高めることも目標のひとつにしながら授業を進めてゆきます。</p> <p>授業の主な柱を次に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児曲の弾き語り（就職試験に必ず出る“初見力”も養ってゆきます） 2 幼児曲を教材とするやさしい伴奏のつけかた（第一歩から少しづつ進んでゆきます） 3 マーチ・ラン・スキップ・ギャロップ・ワルツの演奏と言葉掛けを交えた実践 4 より幅の広い音楽経験をめざした連弾の学習（クラシック・ポップスなどから） 5 ピアノを初心者から始めた人には更にグレードアップしたピアノ曲を指導します 	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行う小テスト 2 授業への取組み方、マナー、出席など 	

【授業科目】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前になる事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。（テスト） <p style="text-align: center;">* 毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目】 音楽Ⅱ (ギター)	【担当者】 小山勝
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギター演奏の実際を理解し、基本的な奏法を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】 「新ギター教本」 小原安正・著 (ギタラ社刊)</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 ● 発音の基礎 ● 音階練習 ● 和音とアルペジオ ● ソロ演奏の実習 ● コードの理解 	<p>ギターの基礎知識 (歴史、奏法、楽器のタイプ、等) 楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。</p> <p>右手のタッチ (アル・アイレとアポヤンド) の理解。左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。</p> <p>第1ポジションでの全音階 (ハ長調、イ短調) および半音階の練習。</p> <p>三～四声の和音パターン (4拍・8小節) とその分散型 (アルペジオ) の練習。</p> <p>古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品 (2～3曲) の演奏実習。</p> <p>簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト (実技) および平常点を併せて評価する。</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 花原 幹夫・飛山 裕幸
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とします。演習を中心に楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をします。</p> <p>◆版</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 版の表現の意味・役割について 2. 版を応用した表現とその種類について 3. 版を応用した表現の実技演習 <p>◆木工</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 素材「木」について（素材に親しむことと、遊びについて） 2. 木工の表現の意味・役割について 3. 木工を応用した表現とその種類について 4. 木工を応用した表現の実技演習 <p>◆作品の展示について（プレゼンテーション）</p> <p>*版と木工を応用して製作した作品を展示します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品と、展示プレゼンテーションしたものを評価します。</p>	

【授業科目】 体育 I	【担当者】 若松美恵子・有川いづみ
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容；オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容；幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目名】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本至
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現場で実践可能な様々な運動種目の紹介を中心として授業を展開する。またそれを通じて、運動の指導者として必要な態度や知識・及び実践能力を高めていく。身の回りの環境を活かし、運動能力の異なる幼児達がみんな楽しんで、そういった遊びを工夫できる指導者を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に用意する必要はない。参考書については授業中に適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の運動種目について、知識及び実践方法を紹介する。各種目について1～3回の授業を予定している（順不同）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソロワーク（遊具を使わず、一人で行う運動） ・ ペアワーク（遊具を使わず、二人で行う運動） ・ グループワーク（遊具を使わず、三人以上のグループで行う運動） ・ フープ（フープを用いた様々な運動） ・ ボールワーク（様々な大きさ及び形のボールを用いた、運動やゲーム） ・ 跳び箱（跳び箱を用いた運動やゲーム） ・ マット（マットを用いた運動やゲーム） ・ 縄跳び（短縄や長縄を用いた運動） ・ ニュースポーツ（フライングディスクやユニホックなど） ・ その他 <p>-----</p> <p>注意事項</p> <p>○授業は毎回、体育館で行うことを予定している。必ず運動の出来る服装・及び専用のシューズを用意すること。普段着や外履きとの兼用は認めない。後期はかなり冷え込むこともあるので、防寒対策（特に手袋）を整えて授業に臨むこと。</p> <p>○学園祭・実習などの都合上、開講時数が少ないので、なるべく休まずに出席すること。また、就職活動などやむを得ない欠席の場合は必ず連絡すること。</p>	
【評価方法】	<p>実技種目であるために、出席を極めて重要視する。怪我等で運動不可の場合も、見学（ミニレポート提出）により出席扱いとする。また、授業最終時にレポート提出を義務づけ、出席及び平常点と合わせて評価する。</p>

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 専任教員・八木・堀江
【開講時期】 2年 前期・後期	
【授業テーマ】 人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊などの我が国社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちの教育に係わる教員の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <p>① 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に係わる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</p>	
<p>【授業形態】</p> <p>① 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</p> <p>② 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</p> <p>③ 文献やVTRソフトの検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的実践に即して演習する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</p> <p>③ 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</p> <p>④ これらの学習成果をもとに、人間尊重に係わる指導内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</p> <p>⑤ さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し、演習の成果を共有する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	

[授業科目名] ゼミナールⅡ	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 前期・後期	
<p>[授業目標]</p> <p>1 どんな保育場面にも対応できるような音楽表現力と指導力を一人一人が得る</p> <p>2 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、そして楽しむ</p> <p>3 上記1、2で培った力で一人またはグループで論文を書く</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>ゼミの中で適宜指定・紹介する</p>	
<p>[授業計画]</p> <p>1 ゼミ室にある色々な幼児向けの打楽器や旋律楽器に親しむ</p> <p> 特にミュージック・ベルを幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ生全員で取り組みたい。そして幼児の合奏の中に無理なく楽しく取り入れるにはどうしたらいいかについてを共通研究課題としたい</p> <p>2 みんなで歌いたい曲を持ち寄って歌う</p> <p>3 ミュージカルなどのビデオ観賞をして話し合い、幼児と音楽の出会いについて語りあう</p> <p>4 どんなことでもいいから（子どもの）音楽についての疑問点や問題意識を出し合い各自が興味あるテーマを立てて徐々に論文作成にとりかかる</p>	
<p>[評価]</p> <p>ゼミ活動への参加状況（出席）とレポート</p>	

【授業科目】	ゼミナール II	【担当者】	岡本富郎
【開講期】 2 年 前期・後期			
【授業目標】 ① 日本とアジアとの関係について、特に戦争（15年戦争）との関連で知ること。 ② アジアの国の保育の現状について知ること。 ③ 実際に援助活動に取り組むこと。 《上記のことを通じて、人間としての自分の在り方について考えること。》			
【テキスト】			

【参考書】			
授 業 計 画			
① 論文、本を読みアジアについて知る。 ② 15年戦争について知る。 ③ ACEF、ESNAC、C.Y.R（岡本が関わっている3団体）と昭島幼稚園のバングラディッシュを援助する会を訪問し、話を聞く。 ④ 特に C.Y.R（幼い難民を考える会）、の活動を中心に学び、実際に活動をすること。 ⑤ この間に、ゼミの先輩の向さん（韓国に滞在した人）、和田さん（ヴェトナム、カンボジアで活動した人）、築地さん（カンボジアで活動した人）と佐竹さん（フィリピンで活動した人）の話を聞いて学ぶ。			
【評価方法】 平常点とレポート			

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）	
【テキスト・参考書】 :加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます。専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等 演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】小松 歩
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもにとって必要な「学び」とは何か、また、保育者と子どもの関係はどうあるべきかについて、生涯発達の視点にたって学び、考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ時間に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールテーマ</p> <p>子どもにとってよりよい発達を考える ——子どもの発達ニーズに応える保育者のあり方——</p> <p>子どもの発達についての基礎的な知識を確認し、過熱する早期教育ブームの影響など、現代の子どもがおかれた状況と子どもの「発達ニーズ」についての理解を深める。</p> <p>また、大人の視点からみた「教育＝教えること」と子どもの視点からみた「学ぶこと」について文献をもとに学習する。その際、発達の主人公である子どもと、それを支える保育者の関係が子どもの発達にそって変化していくものであり、それはどんな関係なのかを、「発達の最近接領域」の概念を提起したヴィゴツキーらの考えを参考に整理し、援助者であると同時に自らも発達の主人公である保育者と、子どもとの関係はどうあるべきか、互いに考えあいたい。</p> <p>また、白梅祭などにも参加するなど、ゼミ員各自が積極的に活動し、相互の交流も深められていけるようなゼミ運営を期待する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（学習態度、レポート） 卒業レポート</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ		【担当者】 近藤正樹	
【開講期】 2年 前期・後期			
【授業目標】 身近な自然事象について、認識を深めるための体験を大切に、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。この学習を通して研究の企画・実施・論文の書き方・口頭発表のしかたについて体験をすることになる。			
【テキスト】 田中未来 編著 「保育研究の視点と方法」 川島書店刊			
【参考書】 飯田良治・民枝 言編 「課題研究・ゼミナールの手引」 萌文書林刊			
授 業 計 画			
4月6日	研究テーマの検討 (テキスト参照)	9月28日	研究相談
4月13日	著書紹介① () () () (研究テーマと研究計画書提出)	10月5日	講義 「論文の書き方」
4月20日	著書紹介② () () ()	10月12日	研究のまとめ ①
4月25日	自然観察 (高麗・中着田・宮沢湖) 鳥 植物 川の虫 昆虫・地形・地質等	10月19日	研究のまとめ ②
4月27日	著書紹介③ () () ()	10月26日	研究論文の提出
5月11日	著書紹介④ () () ()	11月30日	研究発表と添削指導 ①
6月8日	研究相談	12月7日	研究発表と添削指導 ②
6月15日	個人別研究活動①	12月14日	研究発表と添削指導 ③
6月22日	個人別研究活動②	12月21日	研究発表と添削指導 ④
6月29日	研究内容の中間発表① () () () ()	1月11日	研究論文提出・研究要旨の書き方
7月6日	研究内容の中間発表② () () () ()	1月18日	研究要旨提出・口頭発表のしかた
7月10日	研究内容の中間発表③ () () () ()	1月25日	ゼミ内口頭発表会 ① () () () () () () () ()
8月4～7日	学外研修旅行	2月1日	ゼミ内口頭発表会 ② () () () () () () () ()
【評価方法】 学習態度・研究計画と方法・論文と口頭発表を総合して行う。			

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか、その内容は……。さまざまな人間関係の場면을、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の観察（新生児からを含む） 2. 障害児の観察 3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察 4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成 5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討 6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など） 7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成 8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫 <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点で行う</p>	

【授業科目名】ゼミナール II

【担当者】佐野 英司

【開講期】 2年 前期 ・ 後期

【授業目標】 ゼミテーマ : 「ノーマライゼーションの追求」

1. 白梅が存在する小平市周辺地域に焦点を当て、こどもたち、障害児・者、高齢者など、住民の生活実態がどうなっているか、そこから派生する生活・福祉ニーズを学び、生活援助の視点、援助実践の方法を考察します。
2. その際、これまで4期にわたる佐野ゼミ先輩の研究到達点に学び、継承します。
3. ノーマライゼーションの理念を学び、その観点から福祉サービスを検証します。
4. ゼミ学生が居住している自治体に対し目を向け、同じく検証します。
5. 春、夏のゼミ合宿先の実践から学び、ゼミテーマの追求を図ります。

【テキスト・参考書】

ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。

【授業計画】

このゼミでは、授業目標に沿って、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを学んでいきたいと思えます。

99年度は、学生たちと協議の上、ゼミIで学んだ三重県四日市の子育てアンケートをもとに小平の子育てアンケート調査を実施し、家庭保育児と保育所保育児の生活実態の把握と保育者に課せられた課題について学んでいくことにしています。

学外研修は、昨年実施した滋賀県大津市の統合保育実践を学ぶ3泊4日のゼミ合宿を考えています。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度により評価します。

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より良い乳児保育を求めて ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜、紹介する</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 今日の乳児保育をめぐる現状と保育実践</p> <p>①乳児保育実践の検討</p> <p>②乳児保育をめぐる問題の学習と検討</p> <p>の2つの柱のもとに、乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の学習、検討を行う。</p> <p>2. 各自の研究関心を出し合い、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめていく。</p> <p>過去のゼミ・テーマー ・東京の延長保育、・親と保育者の関係、 ・乳児の遊びとおもちゃ、・共働きの子育てと保育所 適時、保育園の見学や保育に関する文献の学習をを行い、乳児保育実践のあり方や乳児保育をめぐる問題についての理解を深める。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当者】	民秋 言
【開講期】	2年 前期 後期		
【授業目標】	<p>保育者に求められている基本的資質の一つとして主体性・自主性があげられる。これは必要とされるばかりか、いま、もっとも欠けているものでもある。したがって、ゼミナールでは、「自ら考える」ことを第一の課題とする。「自ら考える」ためには自らが考えるための「資料」を収集しなければならない。この作業をもっとも身近かな題材「らーめん」に求める。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>東海林さだお 『らーめん大好き』 朝日新聞社 民秋 言編著 『幼稚園・保育園での研究の進め方と事例』 萌文書林</p>		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食文化としての「らーめん」 - 日本社会のなかに食文化として「らーめん」がどう定着しているか、文献（テキストなど）を参考にしながら、理論的整理をする（文化論として「らーめん」把握）。 2. 「らーめん」を題材として各自のテーマ設定 - 「らーめん」という大きなテーマのもと、ゼミナールメンバーが各自のテーマを設定する。このテーマ設定が「らーめん」解析の切り口となる。 3. テーマ設定の論的根拠の明示 - どうして、そのテーマを自分のテーマとするのか、その理由を明らかにする。 4. テーマ解明のための方法論の模索 - 自らきめたテーマの課題を明らかにするため、どのような方法があるかをテキストにより模索する。 5. 実態調査あるいは参考的観察さらには文献研究の実施 - 各自のテーマの解明のため、自らできめた方法（調査、観察、文献講読その他）でデータ（資料）収集にあたる。 6. 収集データ（資料）の整理・分析 - 各自で収集したデータ（資料）を自らの視点で整理、分析し、自らの考えを導き出す。 7. レポートとしてのまとめ - ① 研究成果はレポートとして各自でまとめる。 ② ゼミナールは個人研究であると共に共同研究の場でもあり、したがって、各自のテーマを合わせ「らーめん」考としてまとめる。（その成果はゼミ発表会で発表する）。 			
【評価方法】	ゼミナールメンバー各員が、それぞれレポートを提出する。		

【授業科目名】ゼミナールⅡ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次のゼミナールの成果を踏まえ、個々人のテーマを設定し、課題を研究しまとめる力を養う</p> <p>問題をより深く掘り下げ、原因、背景から課題、展望に至る児童福祉の研究と実践の姿勢を養う</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：西澤 哲訳『生活の中の治療』中央法規出版</p> <p>その他必要に応じて紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 1年間の計画の確認</p> <p>1年次に学んだもの、個々の問題意識について検討する</p> <p>個々人の課題に関連して、グループ化し、研究方法を検討する。</p> <p>2. グループによる検討課題を提起し全体で検討する</p> <p>前期はグループとしての共同の検討課題を深めつつ、グループとしての研究課題を確定する。</p> <p>3. 後期はグループの研究テーマに関連して、全体検討を行い、研究レポートの作成を進める。</p> <p>1年次に児童虐待の理解を深めたことを基礎にして、虐待を受けた子どものケアに重点を置いて、研究していくものとする。</p> <p>虐待を受けた子どもの保育現場での対応</p> <p>虐待を受けた子どもの児童養護施設での対応</p> <p>考え方の上では、</p> <p>しつけと体罰</p> <p>虐待を生み出す背景などがテーマとなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>参加姿勢と研究論文</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学ぶ。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていく。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していく。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていく。</p> <p>メンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、全体の動きや流れを把握して活動していく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価する。）</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達に遅れのある子どもたち、障害のある子どもたちの保育・療育(あるいは生活支援)の実践について、関心の強いテーマをもち深めていく。 2. 現在、あるいは今後の障害福祉の動向にかかわる情報について関心を広げ、研究テーマとの関連や今後の課題について、集団学習を通して深める。 	
<p>【テキスト】【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のなかで、適宜、提示する。 ・ 図書館・研究室にある資料の他に、関係者や関係カ所から情報を入手することになる。 ・ 毎日の"新聞"も貴重な情報源となるので、目を通しておくこと。 ・ 実践者等の研究会にも、積極的に参加する。 	
授 業 計 画	
<p>【"今どき"そして"これから"の障害児(者)の保育・療育(生活支援)実践について考える】</p> <p>ゼミナールⅠで進めた「障害児(者)のライフステージ」の理解と事例検討をふまえて、各自あるいはゼミ員が深めたい研究テーマを取り上げる。</p> <p>研究テーマとしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・幼稚園における障害児保育実践、 ・ 療育機関、養護学校における保育・教育・支援 ・ 障害児(者)の地域生活支援 <p>あるいは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校(不登園)などの臨床心理的理解も含める <p>など、ゼミナールⅠで取り上げた事例から広く検討してもよい。</p> <p>"今どき"の障害児(者)の実践に関する研究が進められるようにしていく。</p> <p>ゼミナールⅡでは、</p> <p>まず、①障害児(者)の「その人らしい人生の創出」について、ライフサイクル／ライフステージの視点と事例について語り、自分の関心を探し出す。</p> <p>さらに②それぞれの研究テーマに関わる"今どきの実践"や研究報告について、障害関係雑誌や文献から入手し、目的、方法、結果等、実践・研究方法について、レポート・ディスカッションを行う。</p> <p>次に、③これらの"今どき"の障害児(者)研究テーマにそって、各自あるいはゼミの研究の目的や方法について検討していく。</p> <p>最後に、④各研究の成果を報告し論議しながら、問題を深めていく。</p> <p>⑤特に、我が国における障害福祉・教育の動向についても触れながら、今後の我々の保育・福祉実践との関わりについても理解を進めたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミでの討議や資料収集などへの積極的な参加姿勢を評価する。 研究テーマへの取り組みや成果も評価対象となる。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1 保育における健康問題について理解するとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献講読や質問紙調査等を通して習得させる。</p> <p>2 子どもの健康を守り育てるために必要な事柄を学習したり、研究するための方法について身につけさせる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 専門誌「小児保健研究」「学校保健研究」「日本公衆衛生雑誌」「保健の科学」 辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年。</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題を明らかにしたり、解決するための方法について、研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったこと、疑問に思ったことについて、質問紙調査等を実施して明らかにする。</p> <p>最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策について、考察し考えをまとめる。</p> <p>1、今日の健康問題を理解する・・・個人レポートの発表</p> <p>2、健康学研究の方法を知る・・・研究論文の講読と検討</p> <p>3、ゼミ研究の共通テーマを決める</p> <p>〔過去のゼミテーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のアトピー性皮膚炎 ・保育者のエイズへの意識と対応 ・保育者のストレス状態とその背景 ・学生の月経痛の状況とその対処法 ・肥満とダイエット ・ダイオキシンと母乳 <p>4、テーマに関する文献研究をする</p> <p>5、質問紙調査等を実施する</p> <p>6、研究論文を作成する・・・研究課題の解決</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>個人研究レポート</p> <p>ゼミ学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 師岡 章
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>資料を読んで話し合い、保育者に話をきいたり、見学をしたりしながら、保育を考える力、自分の考えをまとめ、発表する力を高めることを目指します。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">たて割り保育を考える</p> <p>子どもたちの生活と遊びの場には年長、年少と年のちがう子ども、ちからの発達の異なるものがあるのが自然のことです。年長の子どもは年下の子どもたちを助けたり、遊びを教え、小さい子どもは大きな子どもたちとかかわり、活動のよいモデルを見つけることができるでしょう。</p> <p>このように異年齢の子どもたちの親しいかかわりと育ち合いを目指す保育を「たて割り保育」といいます。この保育にはいろいろなかたちの実践がみられます。ゼミナールⅡではゼミナールⅠで積み上げてきたことをさらに発展・深化させつつ、たて割り保育の理論と形態を共に学んでいきたいと思ひます。</p> <p>これまで以上に、関係の論文や実践記録にあたるが多くなると思ひます。少し苦勞もあるでしょうが、ゼミナールは参加のメンバーでつくるものです。どんな内容になるか楽しみです。積極的な参加を期待します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナール活動への参加とレポートによって評価します。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 八木紘一郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <h2 style="text-align: center;">個性と表現を育む保育アートの企画の仕方</h2> <p style="text-align: center;">表現エネルギーのぶつかり合い・違いを個性に換える保育アートの企画の仕方 個性と表現を育むためのアートプロジェクトの仕方、コーディネイトの仕方の探究</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>誰にも表現エネルギーはある。言い換えれば誰にもアートエネルギーはある。しかし、残念なことに2つの問題がある。ひとつは、個性を育む力の問題である。表現すればするほどイメージの違いや表現の仕方の違いも鮮明になる。鮮明になった違いが何かに役立ち生かされた場合は、違いは肯定的に個性と認められる。しかし、生かされない場合は、違いは否定的に見なされ、時には排除される。表現は表現するほどに、違いを鮮明にさせ、それまで気づかなかった相互の食違い・ミソ・すれ違いを鮮明にさせることがあり、それが原因で対立・トラブル・人を傷つけるなど思わぬ結果を招くこともある。そのためには、違いを個性にできる力と表現を育むためのアートプロジェクトの仕方、コーディネイトの仕方の習得がどうしても欠かせない。今日、このプロジェクトの仕方、コーディネイトの仕方がわからずに、衝突や食違いにあけくれて、子どもの個性と表現を創造的に育む力が保育現場に乏しくなりつつある。このゼミでは、そのためにアートプロジェクトの仕方、コーディネイトの仕方の習得を目指す。</p> <p>ふたつには、表現者としての可能性の問題である。消費社会化は、アートについてもテレビや舞台を通して観賞する立場を増やしていく。自分自身が生産する立場ではなく、消費する立場になって、表現者としては非力になりがちな時代である。このゼミでは、幼年期の子どもたちのために保育現場で創造的な表現世界を展開するための方法を探究する。そのために身近な素材を使った人形劇の創作を中心に上演活動を展開していく予定。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点、レポート</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然界には模範解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度は自然体験の場を里山とする。</p>	
<p>【テキスト】 『小さな自然観察』平凡社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 『里山の自然をまもる』他</p>	
授 業 計 画	
<p>『春の小川』や『赤とんぼ』など、数多くの唱歌や童謡に歌われているように、里山の自然は古来より日本人の自然観を育んできた場所である。</p> <p>田畑や雑木林などからなる里山は、トンボ、チョウ、クワガタ、カブトムシ、カミキリムシなど数多くの昆虫や、カエルやメダカ、ドジョウなどの水生動物、ウグイス、モズ、タヌキ、イタチ、ウサギなどの鳥や獣といった動物たちの住家である。またセリ、ナズナ、ハコベ、レンゲ、タンポポ、オオイヌノフグリ、ヒガンバナ、ハギ、ナデシコ、ヨメナ、ススキなど、四季を通じ私たちになじみ深い植物も多い。</p> <p>山間に広がる水田、その背後にある杉や檜の林、楢や樺の雑木林、茅葺き屋根の家々、神社や寺の杜・・・かつての農村風景は急速に失われつつある。里山の自然を知り、里山の大切さを共に考えてみたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点＋レポート</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得により、理解を深め、グループ研究を行う。 2 動きの追求を行い、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることをめざす。 3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う。 	
<p>【テキスト】 若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」舞踊学第2号, 舞踊学会 若松美恵子 「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする</p> <ol style="list-style-type: none"> ①先行研究の精読 ②研究テーマ、方法の決定及び研究の推進 ③学生自身の選んだテーマで身体表現活動 ④手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現の模擬指導 <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身体表現（ダンス）を文化祭で発表する ②幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>4 歳児、5 歳児の身体表現の指導のあり方 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する。</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 加宮 葵・師岡 章
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか著</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1 週目 ・保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・子どもの遊び場면을主に観察する。</p> <p>2 週目 ・指導に部分参加（指導計画案の作成） ・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3 週目 ・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</p> <p>② 遊びへの関わり方</p> <p>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</p> <p>④ 指導計画の立て方</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講</p> <p>② 実習日誌</p> <p>③ 実習中の出欠席</p> <p>④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹ほか
【開講期】 2 年 前期・後期	
【授業目標】 <p>事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。</p>	
【テキスト】 <p>「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携</p>	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 1)子どもになじみ、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。 2)保育者の指導内容・方法について学ぶ。 3)指導計画案を作成して指導実習を行う。 2. 指導案・指導法 <ul style="list-style-type: none"> 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」・「小児栄養実習」などで扱う。 3. 実習日誌の書き方 <p>II. 講義 保育における子どもの遊びと指導計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の遊び指導の方法 2. 3歳未満児の遊び指導の方法 <p>III. 講義 保育所における遊び指導の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別の遊びの実際 <p>IV. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実 習 9月16日（木）～9月28日（火） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>V. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
【評価方法】 <p>平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。</p>	
<p>【テキスト】 「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携 参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。</p> <p>「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。今年度は 9月16日(木)から9月28日(火)の10日間行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育への理解をさらに深める。 2) 配属クラスでの指導の実際と方法を学ぶ。 3) 実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。 <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ(実習指導)への出席/受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目名】実習指導（施設実習Ⅰ・Ⅱ）	【担当者】中山正雄・小松 歩
【開講期】2年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童養護施設、精神薄弱児施設（保育所を除く）での保育実習は保育士資格取得のための必修科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>児童養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保育士資格の必修科目であるというだけで無く、保育者を目指す諸君の人間観、児童観児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保育士を目指す者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている。</p> <p>施設実習Ⅰ・Ⅱで養護系、障害系の両方の実習を経験し学のが好ましい。</p> <p>今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> (1)施設実習を行うに当たって、施設全般についての理解を深める。 (2)養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次の様な課題を課す。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習先施設に関する基本的文献の読后感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先の施設について概要等を調べる。 ③自らの実習課題や抱負を明らかにする。 (3)現場の方による処遇オリの後に、実習にむけてのまとめを行う。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。その上で、福祉制度における各種施設の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、職員のかかわり方、養護児童や障害児などの特徴や実習における留意点などを現場の方に説明してもらう。 4. 事後の指導として反省会を行い、討論、まとめ、レポートの作成を行う。 夏実習は実習者を集めて担当教員が行うが、秋実習は各ゼミ担当のもとで行う。 	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅰ	【担当者】中山正雄・小松 歩
【開講期】2年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶこの実習は保育士資格取得の為の必修科目である。 2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。 3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>施設実習は、児童の生活施設での実習であり24時間体制の施設で行う。 今年度は11月1日～11日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。 その多くが施設内の宿舎に泊まり込んで行うものである。施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。 なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。 更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為の交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅱ	【担当者】中山正雄・小松 歩
【開講期】2年前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶ。 2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。 3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携</p> <p>参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>施設実習は、児童の生活施設での実習であり24時間体制の施設で行う。</p> <p>今年度は8月16日～26日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。</p> <p>その多くが施設内の宿舎に泊まり込んで行うものである。施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。</p> <p>なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。</p> <p>更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為の交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619